集義和書

三

Banzan Kumazawa

Shūgi washo

LIBRARY OF PRINCETON
MAR 15 1960
THEOLOGICAL SEMINARY

Shugi washo

Vol III

集義和書巻第八

義論之一

一 心友問論語の教ハ仁を主とし大学の教ハ知を主とすといへり如何
答曰論語ハ聖人いまして直におしへ給ふ故ニ仁の徳を主とし給ふ仁ハ徳の全体なれハなり大學ハ聖人去て後聖世ハ出給ふましきことを知召て末世迷ひあらん事をしろしめし知を主とし給へり智ハ徳の神明にして性の先見する所のものなり天下の惑をわきまへて人倫を明らかにする書なれハ知を主宰として自反慎獨の実体とし聖人いまさゝる時学する人の大学ハ徳の門とし論語を以て徳の室とす

一 心友問貴老易と孝經とハ紙なりとの給へり易ハ玄妙深遠大高明なる書なり孝經ハ童子の始てまなふへき書の

早川姓藏書記

揆よゑてりゐれバくさかしなれ乏とゆへつれ　答て云言近
くして旨遠きものハ善言なりといへり孝経ハたゞひろく貴
天地よりして道徳を發明し給ふ故よ其語勢幽遠なり
孝経ハ人倫よちかき道徳を教給ふ故よ其語勢親切なり
家をとゝのへてよく易をみる者ハ近き身よ取て親切よ受
用し幽遠の事となしぬれバよく孝経をまなぶもの詞も
近きによりて幽深玄遠の旨をさとしぬれバ中和をいた
して天地位し万物育する事の極切神聖の能事も
よくある事をさとる孝経ハ句よりて心をとらしむる也
ものをもつてわきまへるもの大抵ハ見様あり易
ハ分ヶ論大意わきまへしも句にてハ窮めれバ道理あり
畢竟易とハ近く見え孝経ハ高く見えて指とハいゝ合

なりハ易ハ天道なりといへ共人道に合ふ事なし孝ハ一
道なれハ遠く天道に合ふ事なし　程子云易因爻象論
變化因變化論神因神論人因人論德行大體通
論易道而終於默而成之不言而信存乎德行とある故
に易ハ畢竟人の德行を成に用ゆるなれハ人の德ハ
ハ孝より大なるものなかし

一　心友問孝之心法　答曰孝ハ天地未分の前になりて大虛
の神道なりて天地人万物ミな孝よりなりと生せり春夏秋
冬風雷雨露孝にあらさるハなし　仁義礼智ハ孝の
條理なり五典十義ハ孝の時なりとて　神理の含蓄なりと
古人も孝ハ言語をもつて名付かたしとゆゑ象を
取て孝といふ孝の字老子の二を合して作れる文字

の傍偏とさん時にハ畫をとふさしかり天地ハゆるさ✓し
きはまりなき大虛れ時にハ理を老し氣とすも天地となて開
けてハ天と老し地とすと乾坤と老し六子滋をと
次に陰陽と老し月とすと易の字日月を合て作る
日月を老と其義一なりと易と孝經とへるてなる道理
也山を老と川とすと中國を老し東夷南蠻西
戎北狄をすと君を老し臣とすと夫を老し婦と
する徳性の感通にをいても仁ハ老なり愛ハ子なり此
理を以て万事万物に亘ても孝の理なりと生まる
ものなし此神理れ我か心に有もれと取く愛用と
すましハ愛敬なり上より見ると下ハ老なれ幼子を兼
多く作りして愛れ象也下よりかんおくはハ子れ老と載く

なるが依りて敬の象から其親を愛すとふの心を
天下にをしおよぼす時はその其親を敬するゆゑに
心は天下におしひろめ慢(アナド)るかたもなくむつましき愛敬(キヤウ)
親にあらはるゝ一心のよりて盡しく天地同(ドウ)根(コン)万(バン)物(ブツ)一体の
性命なりからよく一日も私(シ)欲(ヨク)なくて天理存する時は
其天とつねに外もなく其心とひとつなり内なし継(ワウ)
に初て仁をはふ盡し義をも孝の勇から禮は孝の品(ヒン)
節(セツ)なりて智をも孝の神明也信をも孝の實也赤子の孩(ガイ)
提(テイ)の時孝の理初て親を愛するに發生の花の
後にやむひとゝなりし其長るに及て其
心あり親は祇(タツト)きの發生の花の清(セイ)香(カウ)のようして此愛(アイ)
敬の德(トク)親(シン)に初めてあらはれ故に本分の名をあら

なれハ親よ仕へ奉る道、孝ハ父母よ仕へ奉て愛わら
とも敬なれハ父よつかへてハ愛敬なしひあらえ(?)ずもる
なれハ子よおもひてハ愛專用ゆ、敬ハ内よ修れる也と父の
慈也と云父乃慈と子の孝と和合して父子有親といふ葉孝
徳君よ清くへてハ敬專用して愛内なり臣よおもひては
愛敬なり依りて威厳備て仁政行なる君の仁臣
の忠と和合て君臣有義といふ妻よおもひて八愛みちひ
さ敬なれハ夫よ奉して八敬と專用ひて愛なれハ夫の和
義と妻の貞順と合て夫婦有別といふ心何ぞ其ぬ
此すなわち天心の妙なる自然と如く変化するなり
其中とのりて本末浅深の天則あるさるよ流
如ふることにつかふまつるに兄弟とのりむまれて子を愛

すなはち兄の恵と弟の悌とを合せて長幼有序といふ
友ハ真実無妄乃天道を父母として同し兄弟なれハ実なれ
この八朋友にわかれ是と別て朋友有信と定りたる人
の人わら子に逢てハ父と申へし父に於ひてハ子と是を
君の前にてハ臣と名付家にてハ父君と称するも一のみなり
畢竟一人の人なれとも逢ふにしたかひて名かはるなり本
心乃一徳なるを縁によりて神通変化をなす其義趣
かくのことし

一 学士あるとき問て云顔子ハいかなる人やらん徳ひ(?)を
ふかき事まて大賢乃心地ありてハなかなかに及ひかたし
愛用(?)道を修る道にや　答曰まことに甲よりのや(?)
末代乃ちかき世なれハ壊世の学者の及ひかたき所なり

亞聖の地位にいたりては事々さ様にもなかるべけれども吾人
といへども外さ事に心得ちがひたる過ハ大に悔さとら
て其非を知たる以後ハ二度せざる事あるべし自己今日を愛
闕に及びて過ちハ二度せざるの工夫ハもとより人に聞ゆるを
心なくして道にかなはぬと過といひ心ありて過を遂と
悪といふ思ひあれバたとへ心上に一念道とはかりぬるも過
とハ既にあやまちハ心を心思ひて絶ざれバ速にかく
ざることなくハ大なり爐火乃中へ一点の雪なげ入れバか
あらし火乃上まで落しきれバ火気を以て消しさ
ふたゝびとがしあやまちを道となるべく念慮となりて
不言ひハ過を知りてひとたびかへれバ二度ともせぬ悪に近し
吾人ハいまだ気質を変化せざれバ其平人の位をぬけざる間ハ

其心地の位ハしかしながら間思雑慮ハ昼夜に幾萬と
なく生ずる事なるゆへたとひ百度萌きざすといふとも一念獨
知の上にてはやくさとりて速にはらひさりて後ゝ漸
くこれ滞留なさしめず受用しなば是を遠ざかりて
復までしらぬ色なし　問聖学の心法此外にもあるや
へいはく如此間断なく受用せば終に君子の地位にすゝむ
全及なんや　答云是ハ尊徳性の工夫也されば
もうそれより居る惑をときはらふ学問なく
しかし今日の常人の位をぬきとらずして只少分
右の工夫をもしもはじめて後ハ退屈の惑を
錬つゝ真智照やかに今日の凡位をぬけかは
前よりもなし昼夜にはつするの間思雑慮の妄ハ一度

ま十を二千とも色生れ迷との妄ハおかの昧こゝあは
あれまたとけれ太陽東ニ出ぬれハ夜中ニ出けり
きつる狐狸数虫のあくむじゆうて皆何方へ行やらも
すなわちむしし言ふ歩士おしんニ歩行入者ゆく
其風の卑俗なれを悟て神妙にせんとして思ひて
苛嬈にて悟もせハ舊習出ぬへし馬に繋ほど
の身上に成とき其の歩行の者は風俗ハとかくれ
あられなくあらしも我身のへうといふむしと嘲すまし
これらの凡位とも至る時〻にゆすらひをとれまし
心法の受用雕鄙なりけるし随くに其位我をを
て侘に徳に入君子の地位にすゝをのかちも我氣
憫変化となりて同ほ怒を遷されまき

者にいたるとも其氣うしなふのみならん事
今まて一人にいたらハ終日其氣ときれ顔子なとハ
聖ハ其不義其悪逆にかゝる人にあはさる
也ハ其怒乃氣にては鑑乃美を照し悪を照
ところありて跡なきことく也や　答むかし其事を見
なくハ何れとも其谷よりて八今目乃受用と成かたく
あらたに聖賢の鳴をなすより今日吾人にいたら
ても聖人の怒に同しきにあらさらむ物語
をきいても長田か義朝をたまし鎌田をも殺し
たるを承きくハ誰も心生しいかり発せる
其時に居ましいひ一刀切らんと思ひしより又今の時
思へとも他に不義無道なるとの事ハいかにもなく也

心生しぬるもの也これを此怒(イカリ)を性命の正とす故
つゆも私欲のましはりなきゆへに氣は廣(クハウ)大(ダイ)
剛(ガウ)強(キヤウ)になりさかてかきりなく相火乃たかふりまく
内心常にかくも清明なる也一ハ為私にくらまされし
へとも聖人乃心地よ近くゆたかなる也と怒よりいかられ
と云聖人を今日の交(カウ)接(セツ)とすへきことも私欲まじらす
万事これ性命にして上より発する事如此し吾人ハ他人の
上も如此く明のなきにしても身乃交(カウ)接(セツ)もする事をいて
へ私欲ましなくハ其怒ハ正道理にても相火
たかふる心おこれハうらく賊よ氣はしりて
こり言語つらくとおやましく平(ヘイ)復(フク)の時後(コウ)悔(クワイ)なし也と
怒よりいかることにて文王一たひ怒て天下乃民安し聖

人ハかりそめにもころしとしいかりをなすべし天理なり人欲なれバ善
人のうへにも悪人退治雷雨の動かごとく悪人をおそれて其逆
心の肝を消すばかり怒のことくしあらハ悲哀しいへとも吾人よ
つまて聖人よ近ふさしとおつよ百歳千歳昔の漢倭と
かく物の哀なりしものゝ言ふて又ハ道理のまゝ極みを聞てハ變志ふう
よりて心じへし一作の心真實惻怛の情よことなれといへとも
なし心の霊臺にたいしておいて損益なし平人の心ハかりて常なれ
悪念妄思をさしはさみて善ふ近きことわり私欲の変化なるを総
一 学友問格物致知の心法ハ古昔の経をもかく孔聖の語よ
そのえて作らんよ思やく発ふしくをもつつ答曰易の六
十四卦其位よ應しき格致の心法おかれとなかるい易簡に
然よいつまへて通る様よ知くかつを出しありてハ覚の

舜に傳給ふ執中の心法也孔子は顔子に傳給ふ非礼視聴
言動すへからさると也是亦格物致知の義なり曾子に一貫
と忠恕とをもて道を傳給ふ子思又孔曾の傳の心を述て経一
章となし給ふ時格物致知といへり「問視聴言動を云て
肝要の思を残し給ふはいかに　答四時と云て土用を、し
もまた元亨利貞と云て誠をいはす仁義礼智と云て信をいはす
これ四は應してくるところのものなれはいはすして其内にあり
さて視聴言動の四のことの思を主とせよとこそ云しか其上顔子
おハ思の格ハ不用なり中人以下の学ハ善を思ひ善を行
て悪を思ひ悪をなすれはかやうなれと心思躬行ともに善
くれて悪なきを善人と云俗人とも云これは移りて是よ
り信義大聖神にまさる也顔子ハ既に大人なれハ悪念の

霊臺に往来せざるがゆゑにこそ善念も亦往来なし何
の思か格らんやされバこそ三月仁に違ハざるの語あるも
春夏秋冬みな三月にて相易るものなれバ三月といふハ
一年中の事なり年月日時ともに終に仁にかなはざるなし
然れバ三月違ハずといふものハたゆまざる間断なき善念
のまさしくあらはれたる所のふしぎをよくすくなきを云ふ寂
然不動にして感じて通ずる聖人の心地にハしかれ
ざるとありてこそ一片の浮雲の大虚を過ぐる
のおもむきといふ平人にあひなほくハ挙へおのづから善なれ
ども顔子に於ひては自然の仰にあらそふ所に其善
念を領受しとどめて遠くなりし復すれバ回心
如此なるハ視聴言動非礼の事をなさゞるハ答

顔子高明廣遠なる事においてハ聖人に同し今さへ右
孫にてよりたらん事人よりも聖人にまさるものハなを務られ急
打つまの事なれハ心をつくし残念河ならとあり仁ハ天地万
物をもつて一體なりとも残とよりのあるへしよりよく
未た事をなさて顔子治國の論によひし軽見等を
以ての経に不可なく知なし　同先生の論ハ陽明子の
傳に付て朱子王子格致よそひくハ黒白のちかひある
といへとも　答愚ハ朱子をとして陽明をとさんたる古の
聖人の取て用ひ行ふ道統の傳のよりをたつしく朱王
共に同し其言ハ時により傳ハ一其真よりして
ハ符節を合せるかことし又朱王まても各別よわかれハ朱子
その時の弊をためんため理を窮め惑を辨せらるゝ事は聖

自反慎獨も功なりとねらうと王子も時の弊によりて自
反慎獨の功に重し窮理の学なくてもあらず彼愚拙自反慎獨
の功の内に向く受用と成さらば陽明の良智の発起に取惑
を辯ずるの事を朱子窮理の学よしと立てし朱王の世学
者の思しは異なりし地を易ば同じかるも窮理とて事
々物々の理を空において人のさくずひゆるを学者す
心もなきしは和の事物によりて其理を窮むるなりさ
是ハ先ハ初学の時の事なり大意心ゆ知得まし迄いに
また不辯不知の事千万も事物みな其名ならずといへども
すなはちなすことなし異学の一代心を盡すを悟といふことの道
聖学ではなきもなくハ力をもといはれ心をも労せずして随
ひらく得ことなり

一学友問云同しく聖賢までも御道ハ何道にも孝行なるさ
ふことハあるまじきに大舜文王曽子閔子の數人としてみな孝
の數に入給ふといへて　答云歳寒して松柏の凋むにおく
るゝ也殊に給ふね平生無事なる時ハ聖賢も善
行しにあらしく不断にて縁なし聖賢の道を行ひ給
ふ人の無病の時も同じ理にて常は其身の目にも其時ハ見え
ことなりがたきを不行のものもし明者も闇まれば黒白なる
わかくことなりてより事なきとも大不孝の大悪人まても相にわ
ら緑ハ夏山ハ緑ハ夏木冬ハ木なりてのらさりね同まよ
り青山ともいふかりへるかり大難にあひ大変に逢てそ
凡人と君子とのちがひ太にちがひしあく　孝子の數にいふ
聖賢などハ道をあらはせの境界常にね不あへ難

てだゝり同人の行孝よりえたるは深しといへりされば孝行も
聖賢にも比しられて聖賢の学ばりまことに人のかゝはるに曰
其意は氣質の美をそだてたりいはゞ大道を見あらはして大徳の学は
らうさまとも氣質は本氣の精を多くうけて生まれね
ともし本氣は神は仁なりける故に慈孝懇切にて柔和の心よく
いふものは深く孝行なるものなり其方の氣質つりあふさ程
又他の霊明しときものは孝行なるほどよく挙用ひして国家
の政道なすしめは不足するもの多く作り此人賢聖として師まで達て
心法と受用せしむるものは父常の人よりわづかに名別大徳の
功いかく他は不足なる所をおぎなはれてやすく行ひ曾子の如き
さる是なりかさもし曾子父のために瓜をくさぎるとてあやまつて
まさく瓜の根をきりけり曾晳怒て大杖をもつて曾子をう

つ曾子はしばし地に伏ゐたる狂者なり迷えて家に入ねころん
で漸くありて曾子よみがへり父乃心をなぐさめんと思ひ給ひしに
又ほどなくありて曾晳の前に跪きて父に不敬の罪おかせし人
を閉じて教をうけて我方に帰り琴を弾じ詩を詠じ
て父に聴こえしめんと紙にしたゝめたり一耳へ涙を流し感じ
門人悦て夫子に告たる孔子聞給ひて吾道に叶はず弟子者ならぬ
ら我門にいるゝことなかれと侍者に語らしむ曾子其故を問ふ孔子曰我聞
むかし大舜を師と求めと云とし舜は父の小杖を持しいは
はこしきて退きける大杖を持て追付ば其あたりにも近付ず
わが父をして人を殺せし罪におとしいれざりし也今曾子は身を棄て
そのへりなむとせしそれも若其まゝにて死しなば曾晳ハ孝子を
殺せし罪をまぬかれ何ぞ大杖をみて早く退かざりしやと聞さる

の甚しきなりと門人曾子に告玉ひ曾子鄙つして其罪を謝
す曾子ハ生得孝行なり是によりて氣質魯鈍朴訥なる
所あるところ聖師につかへて大学の心法を受用せし故へ愚
なれとも明かに柔なれとも剛く我身なをし神化変通して
大賢乃位に至り給へハ天下乃事まよおちひて何事も聖人へよたらふ事なし
一 心要同孝經之大綱　答曰孝經乃心法ハ正心修身天命乃分を
要して人を慶不の位に随て道を行なるを天乃人我生れ不
と物あきらかにし則ハ天子乃冨貴にいをのつしく天子すへ則
ハ公侯伯子男をの〳〵則ある卿大夫士其道あり農工
商其務あり其行ハ不乃大小ハ各別なれとも孝乃心法ハ
ひとつなり大河の水のなかるゝを不に随て象をなすことし
方くゆく田地乃為り井をつくれハ其井手に従てに流るゝ

かぎらし給ふるに就て晝夜誠をもて外を温行て内明らか
なる君の性ハかハらずし君子の象なり小人の心法ハ外を
照らして内昏し人の非をかぞへて己の不善を没めて燈
臺のごとし・かるがゆへに天下の人みな内明らかにして己
不足をおもひ外温行なる人の非をとがめて天下太平なりしみな
然るにまさる事のなきことを知ハ孝の象なることに相同じきことく天下
平なるべし孔子の時よりも異端の教こる人ありて崩るゝ
孔門の学者ハ皆人この事業ありて多くハ日本の地士と云物
よくよく古風の田地の家督ありて学ハ正心修身の志ぞ
まなぶことのなからむでつまる人を国用の役にあまる
役儀なく生産なくして道徳絶て人よ居ところ
ものなりければ堯舜三王の盛なるとしてずえハか

まゝにて何となく五等の人備たかゝる福ありハみな此勢より
孔子の時を得給ハずして天下を周流し給ふも古
よりの風なる聖人なれど時の変をすくひかねたまふ
後世の人もまた然り甚しく二三変すれバ五等の人
備の外なり道学をとりて家を建て産業とせ
ものも出来る勢なり孔子ハ方ともなく小官をも辞
せられしそ役儀をつとめ給ひし孟子ハ外に出てや
勝をあがめらるまで方との地をおり官禄なく産
業なし徳ハ如しくたれなるりはつるもと孟子ハ大賢
まゝ孔子の継ぎて天運の変をかへし然しく
真身にまハらぬ生しいかなさくてなし後世にそ孟子
の徳なくて孟子の風をとりなしたる時ハ甚しく道学

を殺く産業とするよろしき道の其人統然を
上行く道と行うくとも五等の人倫を離れて道者と
ふとの世の有る時はともや五等の人が道を離れて家
あり絶ゆは道学へも一物と成て天下國家の用絵
なれは其後道者佛者らく人倫の外に道を修も
滅世てくする者多くハ争ひをもかたりける孔子此
萠を見給ひしかれば五等の孝を発明したまふ故に
万歳道学の鑑也此鑑ハ違ふ人ハ堯舜の位にあり
さからす明らかし 同五等ハ数をくさるべく事ありく候へ
そ古のよくを五等とつりゆくハ用達をもあるし記たる
此と世のハ是一絶り 曰大綱ハ五等なれしとも其一等
くよ類ひ多し 天子そつハ只一人あるべくたらしやうに

日本にハ今の世にてハ又大樹一人也諸侯一等として公侯伯
子男の五品あり外に又附庸の国あり日本にくらべ名
ハ違ひあれど此ならひにてハ四五十万石以上ハ公侯のごと
く三十万石のかしら上下ハ伯のごとく十五万石の上下ハ
子男のごとく十万石以下ハ附庸のたぐひ是諸侯一等
の内の品わかり御大夫一等といふ其徳行役儀の道理同
しからず大小高下をしるべく一等として其内の
品をいへば天子の公卿大夫ハ公卿なれど公侯になぞらへ
大夫ハ伯にならぶる元士ハ子男になぞらへ諸侯の御
大夫までハ小身なれども人の臣として君の命を承ハ
るゝ国政にあづかる事ハ天子の老諸侯の老たるよ大臣
たる也臣たるハ行事なれバいづれも同じ事なり一番

あくらし諸侯ハ其国の君たりとく役儀なけれバ人君の
ゆゑあるは臣なれども天子の容ハれを以て侍の人
是今日本にあくらし諸大名の参府礼遂にあは老中を
御使としてかくらしとそれをおもくはあり同前なるべし日本王
代の始ハ上代と中世以後と時勢のかはりしを考へ
らるべしと此禮を行きりきらうし成て天下統治の始めより
なれども聖人の掟にあひしとふりし何れもハ長久なる
ことかならぬのちハ士一等との其内にて品々ありとかく相違とて
此ハ德行のなくてなるとさ成なりし番頭并一人立の歴々
と上士とし云ふ物頭與頭組付よてらし千石以上の
人ハ中士のなくらし千石以下の平士ハ下士とらく在る所
司代、武官なりし中夏の士所なれば代官ハ農よ兵なり

一 むかしハ上古の役儀たるゆゑし日本の今ハ兵ハ農とわかれて有ぬ下士乃役となりて或ハ庶人乃官よわならびて役ともを定ぬ江戸大坂の町奉行ハ中士の位よく威勢ハ今の上士よりもまされりこのなかの廻しの町奉行ハたゞ下士より出ぬ中士にも兼れどもありあの物奉行ハ四ほくへ下士より出るなり それよりもむきさハ庶人乃官よわなるのたくひもあり中ハ姓ともいふ大身の子とも小身の子ともあるハ下士乃内なり歩士る庶人乃官よわなるくひもあり物よりく醫者なるも町よりわれありしるハ庶人の官よわなりけくひともいへまら醫者ハ庶人乃内工商乃たくひなるゆゑし祢宜なども庶人の官よわなるたくひもなりけり又神職よ高官しわり天

文道楽道醫業なとハ代々其家ありてなれハとして
心法用ひて云しきる故なからまほしとて家々職
とく乃するを嗜むへきものなりむかしも人ゆゑ
其道を得たる人ハ如来也ハ其家へ教るとあり免し
道学者としもつはら史官物よみの外ハそまゝ若し
学者の其家と云ものまなれ理なり其中へハ五等
の人備へあらましく学とく人との業をあらく受用する
たしからん幼年にハ学ひ壮年にハ行ひ老て教ふ
古今の常なり譲道ミチしあらハなく親ハ子の
師となりもして其間しき人の因を以て上より大
学小学大学とつとめを令しあらとなまハ従よりくさを
まへむとく学問する人をおく人ヲ教る家ともなる

道理なり士ハ其身よく徳行の至らしむるのミか
其上下通用の位にして上ハ天子諸侯卿大夫の所職下ハ
農工商を教へ治るものなく秀るハ諸侯公卿しからり
ある者ハ庶人ともなれ才徳ありなから隠居して庶人と
同しく居を處士とて又大道を任して志大なるものハ
士なり公卿諸侯の本地なれハ賢なるものハ公卿諸侯
をもつて士を敬しかね徳と年と位との三を天下
の達尊とす朝廷にてハ上下の礼のみなれハ位
を尊ひ常の交ハ年を尊ひ世に於たるを人よ長くる
の道よなくハ徳を尊ふ公侯も士の賢をうやまひ
然ハ士ハ公侯の位をうやまひたかひに相敬するの義なる
志同しく心を友とし時ハ双方の尊卑相忘るの義也

あり道と志しらぬ人ハ其職也を忘て一旦のうか〳〵色に
富貴なる奢者ハ士を慢じ従ハず徳あるものハ隠れ
て不出中人以下の者ハやゝもすれハ心のしらで下輩と成
て天下よりハ士出来ざるのみならず併庶人一等とならく
農ハ本なり工商ハ農をたすくるのみなり工ハ工匠
もろ〳〵の職人鍛冶白かねや塗師屋小細工師あまた
何にくらし職をする者なり商ハあき人居ながら
わきまへすかも廻しよりそこの国の物をなかし江
通じ売るを手ずから不作して金銀をとりて世渡る命
ハ物じて商なりまれ人の物ハ農なりき農ハ秀たる者よ
ためにしるの為となくまゝに物の損合をし指當をと
らくましハ事調すれハ故に其人ハ農事をハ寄合をにしめ

惣ハ其身の智恵に擬ひのきこえある士の称すへき在ハ
所ありて後又秀たるものに惣の士の談合しきさす
いさもて諸侯も来ね又諸侯の内にして大に秀たるあ
其徳四方へきこえおのく不及所ハ此人より道理ある所
に寄合てつゐそうし天子とあふきまつるなり極士
の中より公卿大夫として其次を士農工商
と如して天下の万事備て天地の五行に配して五倫
五等の次第をなしたるなり
一 孝友同孝を以て天下を治しめたまひしハ孟宗ハ至孝
なりとて天子とならハ堯舜の御代たりしならむ 曰孟
宗あへ又の数子ハ身を天質の義なりといかく性命の学に
委しからハ家を治めて其親に事る所も又情欲の父

毋也要中に異なと求むれハ性命也父母よりうくるの心なれバ
よく奉ハ父としめ終りし身ハ性命乃父母よ事へ孝を
とりて天下を治め以るの心を盡し性命にかなう
ぎする時物ごとハ父母の性命よ事れバ又得ぬ變
教盡於事親而德教加於百姓刑於四海とハ此ことの道
孝經にいふ天下皆正人となり天下正人となる時ハ天下の人
の妖心を得て其父母よつくしかふかる先祖天地大虚に
よ其妖心をくるを以時ふ至て天地乃氣物に融通の
和わり鳳凰麒麟と此大和乃氣中ふ生し神龍靈龜
と海中よ生ゑ風雨民の願ひよ應し五穀大よみのるも
草木生長ゑて留滞なし鳥獣魚虫みな其生を遂
君の魑魅魍魎皆吉神よ化し蛇蝎みな龍よ隨ひ露

狼深山に道をふさくる者ハかならず矢にあたる天下に
魑魅魍魎一時に消てうせ悪鬼邪気ようへさゝりけ
いかつくしくして残なし天災地妖生れ重なりて人為の禍
乱何よりておこらんや邪気の生ずるへき内よ七
情の相勝ずし疾病いづくよりか生ぜんや大舜の孝以て
天下を和のふ至徳の化如此にして中国の民ハ其風をしたひ
いふにおよばず東夷西戎南蛮北狄の耳まてもきこえ
通路もなき国まても此時よ和をもつて無事をたのしみけれ
いふまでもなし堯舜之儒の政ごとハ只是より如此の至治
孝を以てせられて何とさらでかせん堯舜の道の豊に
なるにおいて明浄をえしてのち彼異端の諸家ハ大鵬の
翅の蝉と鷦鷯のごとし月と同して語るへからず孝経よ

四徳の教あり天に四時のめぐみあるごとし第一徳は條理也第二徳は極功也春夏の道に配すと第三徳は反覆して心法を發明し第四徳は變を從ふ秋冬の義に配れ

一武同德の国めくハ誰ともなく天下を取てハ王となるべし然れ日本にてハかく天子の御筋一統にて天下を取人も多しと號し将軍として天下をしろしめすハいかにといふにまことにまうしまんやと云中夏とて大地の中國にして四海の中にあり南に六十國あり西に七十の國あり北に八十國ありて東に九十國有り是を四海といふ南を蠻と云虫にかたどれり西戎戎と云いぬにかたどれりと北を狄と云けものゝ多くにかたどれり東を夷と云人にかたどれりとて四海の内をぞくまなくさす九夷の内なる朝鮮琉球日本とすくなきたりしまそ三國の内にて又ハ日

かくのごとく生たちし我ハ中夏の外四海の内より日本に及へ
き国なりし昆天照皇神武帝の御徳によりて大荒れ時日本
の地生乃人ハ禽獣に近しとあれとも天照皇れ神聖の徳を以
て此国の人の霊質によりて教をすゝめひてより始て人道
始まる天照皇ハ地生を嗣しまされ神武帝其御子孫
にて天統をつきたまへり氏系圖を云事を王孫のたぐひ人々成く
国土乃姓に異なるゆゑなり然までも一族たく人となりぬ
して天統をつがれ地生にましましてより天下をしろしめす帝王
の號を得事不叶三種の神器を身にそへ奉りて天津日
つぎ給ふ事ハ天照皇乃恐多く且天威のゆるさぬ所なり
日本のあんハかくのごとくなれど他の國ハかはれる例あれ
ど日本ハその篡統の理也同かくのごとくゆへある帝王ハ天下

何として武家にかぎりて云や謙徳をおもひあひ
し然るに天下の権威をまもり給へるハむかしハ日本国中
一国にのこらず今の様なる国郡の大名なくして都より
代官をもつて受領をつかはし給ふ国々ハ農兵也其後王徳を
まもる国々に親かなる者出来て王命を用ひざるハ征伐
よつてハさまたけし人則其国を治め子孫ハあつかりて国主となる
なまりて国々それハ歴々大名なる者を官位なきもの人と
称し官位昇をなさゞるハ地下といひて賤しめおかるゝ所也
其心ハ王城をとのくさ事に思ひしめり故に王臣たれ
或ハ受領これ其折節武臣の大家棟梁を取めぐらし主
則をたうひて主君とし士君礼儀有事代よりかはらぬ是主
者の武臣に威をうしなひし根本なりとして武家

とゝのゆるハ然るべき也しかれハ分に過る事也是を奢といふ也
世をくるうる也凡武家の天下と成てよりこのかた五百餘
年の間に天道命を改め給ふ事六七度まで代のかはりしハ
これハ何ゆへぞと云にたゞ謙徳をうしなひし故也されハ
足ゝる代の御ハ傍輩たる事近しくして士の礼儀
正しく富貴年をよせたり奢りも長しつまるハ将軍
の士までむかしハ云家のありく國々の士ハ地下よりもさて
きらう大名とし我家来程の人にも及る家中の諸士ハ頭
のあがりて御禄をはしもいさしきやうの事也将軍家の諸士
ハ御威光たゝりと不礼をゆるしてまを〳〵眉目と思ひて勢
ひをさかんなれどもそのおごれハ天道ハみつるをかくなれハ
かほとはびこりしおごりハ諸士乃いきほひも時を得て后

入ばんとすれバふとのさくあし前車(センシヤ)のくつがへるハいましめ也
知者なれバ同今時公家ハ出身なくて官位(クワンイ)高(タカ)くして今無
礼となしめくりひとしの名残おしらため後ハ其非を
さやうらぶるかなくと申しまするや云ちつるもじしまさ
奢つらなく權威(ケンイ)をふるひ給ひしがとも其時
の事からか今ハ緩しからなく持ちる公家なく成らしまする也
わざとしてしうなるかゞくハ今ハ人ならぬ給へ
公家ハ絶ゆべしむかし權威(ケンイ)ありし時ならバ謙(ユヅ)リ給ふが
よし今ハむかしをしらねバよく武家(ブケ)より随(ズイ)ひ敬(うやま)ふ
なまふう禮儀(レイギ)なくバ同時なるく公家(クゲ)の天下なり世の事
と可なとう云中く世人なりしくバ世のなりゆく人へ世の中を
まつりさばくハ昔(むかし)ハ武家(ブケ)より御氣色を承へさ

事なりしが今は何ハ御用心となれば御事也見えしとていへし
にわく経と経とにゑくある数しめよの日本の為めそ又将(シャウ)
軍(グン)家(ケ)御冥(ミャウ)加(ガ)乃ため也同日本の国わ為しれ如何なる
道理にや御冥(ミャウ)加(ガ)乃儀(ギ)へむまはならるあしくよりて日
本をハ君子国とはいへとも其故ハいかにとなれば日本
いづれ楽の道(ミチ)正(タヾシ)しく風(フウ)流(リウ)なる国ハ東(トウ)西(サイ)南(ナン)北(ホク)よりも
事也そもそも禁中をうやまれ給へしてハ清(キヨ)盛(モリ)頼(ヨリ)朝(トモ)
よりこのかた武人大君と成て武勇をつくして天下
とられり武ハ野人を近き行(ギャウ)達(タツ)者(シャ)に成しは武家也
いづれそ名ハ陰りもとし次第に上るふまなりければ
生しやうふかわく心ではりハたまくもとをも武勇(ユウ)
の達者ハそれを力とかにをしつきも事あそて其ハ知るべし

寄島の野人のごとく天下を取まりものゝ為に国主として先
田天竺さる事のなくしは公家なくて幾度も
まりけれバ二三百年の内にハ天竺南蛮にもかはらねれ
ろびそして威勢し禁中まりまれり人ハ天下治く
嫁しハかやうしも将軍家の内をこきうして諸大名皆
たハかりあひ束帯衣冠の禮儀をうへく勿て合の
則ある事は知御遊の体管絃のせの威を耳て
勿く天子のならひをすなり彼ここひ見しハも乏り
身拱ありみなりすとの見びも多り此無道ニ芝
ハ国天下のなり明る事をあれり野人すなりかなそ
ぐ天下ハ知りしの人なる也必古禮儀をあるき若
楽とあもし禁中をみだりく君臣の義を天下ニ如

教法ひとへに天下の人民を見るに威をもつはら人を昌ス
の主節としてかくのごとくあかめ奉て主君となりく
かしこきかゆへかかるかゆへに道ある君ならは我おいらく国
郡などはみなわつらふ忠義存せらしやめてむしう賊心
おつきし者をなちかまちつきふかべしよく普代の思ひ
をうちたり賞禄を以て世乃太平をもとめやうらうり禁中
とりかまさでいいつく此徳あらんやとさをもつて日本
国のそんえいはかり令門良俊云文道といつてそ
武道終ようするへしと此良俊は武家の世しうて
させくこの文武二道乃人也世の兵乱は人の病気のごとし
邪気甚しき時は其邪をせしむれ薬なくて寄
邪気さりて其後虚しうる時は人参白朮茯苓の霊

藥なくてハ死をのがるゝ事なし戰國にハ武勇ある人をもつてこそ
國を取といへどもそれに敵なくなりて國靜にして戰國なくて
の後今月の養生あらバ永久なりがたし敵去て後の
養生ハ文武の道也病後の人參もたとへバ病邪といへども
人參を主として攻撃藥をも用ひるハよく戰國といへども
大將ハ仁義の德なくて不叶事也太田道灌ハ其功あり
武者にて馬をとゝ鎗をとりて給ふかれ無他事有時
鷹狩に出て鳥によらん為に民の家に立寄てみて
ら給ふに其女ハ野によりて妻のあり山吹の枝を持ちて
り折事く御前にさし出してころくの言葉もなくて入
ぬ道灌此乃家に到りくさのをきり給ひて悔られて其夜
人々に物語しけるに時今月乃かすみむかしそ乃事を語ける其

中よ京兆容歌道よけるさるゝのおもえしハ其女を
ゆへある者の落ぶれたるむすめなるらむ其乃こゝろをさとく感じ
内よなかりしを賤乃女として大守に言葉をかはし
奉らむ事を恐れと思ひて山吹乃枝をさゝげゝ
御いらへ申たまふなるべし古哥に七重八重花ハさけ
ども山吹のみのひとつだになきぞかなしき其時道灌女
むすめくさへし花をさゝげしゝるさく恥しき
事也國郡乃上に居ながら賤女にもおとりけりとて
より士ハ文武二道とこそ云なれ我ハあだに狩人によ
さそれハをうとく上に勤ことを心がけしことゝまで学
問をはげみ給ひて其比の武将にハまれなる文筆
の達者になりて詩歌ハ云に及ばず經傳をも学びあきらめ

其学問の事ハ世よもふ人多し問ふすれハ王者よ天そ
のかへふかしほとハ如何なる道理侍りにや、さし日本
の主なれハ、左みなつりめへきにとしめくれハ云代をかさね
て天下をたもちて天の廃ること不有りとも又り統まもれ
王者ハ天神の御子孫にて地生よあらわれましまし日本
よをおさめ廣大の功徳をりしすれハ天下の権勢
とハさりおもひてやさしうたれしそ上よたてせバ川
まそこ日本の主ゆくとハしまして道理めくゆり武家も
たとひ天威のゆるし有とてもともら手を成とハいひろし
き事也にとしく摂政家の心ゆく天下を知ぬ心易き
るや何にかたき分別の人なくて王とハ成ぬ色りん又此方
すりかへし奉らまてもまつてきしゆすりと申奉りもて

後醍醐の帝の時ハ公家ハ日本の人情時変をよく候
あひて出たる天下を失ひたまへり今ハなれ〳〵しく
すゝ給へどもなをひとりにし奉りたまふとも御代よく乱逆
出来てなかなかもあやうかりし御代くは武家の人皇帝位に
上り給ふらんとし王の天下をとり給へんと思ひ不忠分別する
者多かりけれとも一ツの道ありて将軍家に賢君出たまひ
しまして三十年とも用意ありて家臣にきたく迄
よりくに末代までの法をさだめおき奉り給へば人皆
ひとも何とていても又五百年とも風波なく世中ゆたかなるまで
御し後世まかくの如く人出まじく御代よもさせらるがかくは
同永禄天正の比禁中公家ともかく衰微しける人家
處に秀吉が御継絶をかく御撫有て為成くつろかずく

くの比なりけると云戦國の主誰心を信じ奉るべき人もなかりけり
ましける間朝夕の御つとめなりがたき程なり此故に義満大諸侯
ても御沙汰も不任しそ不叶事也秀吉公の御沙汰もさまく
ありては道を知る人ありて禁中の御為日本のための
御沙汰もなかりし一旦は御沙汰によりしか共都へ
公家のこと御かまひなし然れとも猶ひは今天下の
御政道あつかり給ふもの宮殿の修補ハいかさまにもある
まじき寛なくして事物過分な時ハ火災度々起りしか
然るに禁中の霊物も七ひかへし道ある人の御沙汰なる
へ禁中の御住居と云ふべき奉ていかに一の禮樂ハ絶ぬ
様に御律樂ハ御神樂の類をつとめ節會御遊等
にもこれく其類をつとめ奉て其外は事の如くにて行はるべき様に

し宮殿諸道具等ハ質素にして礼儀の時ハまくるへし
ならハ禁中ハ正實にてよろつのものをかさることなく次坐
の憂ともあそかしき也公家中も衣冠束帯の時ハ礼儀
たゝしく平常ハ其所の分に應してともかくもなりけれ
樣に公家ハ三あふ所の領をもまちくれハ公家の公家たる
禾礼も厚くして長久なるへし大名縁ある公家ハ上﨟よ
もしと繊事也内縁よりて奢を生し礼楽ともに
うとくめくれハ其子ハ父方の家督小身なれハ母方の
人の多き方へよろひ移へり母方ハ野人なれハ悪
禮をも好ミ俗にて淫楽すれハ志ておのつから家ハ俗に成て
淫楽をこのむよし也是そ公家の衰の初なり俗を
移し俗を好む事ハ楽よりも甚し公家の風俗や

ぐそくいつとかゝりくやしく成けれん事同前にこなへと
此公家中かくのごとくなれども帝王一とせまのつゝかれしぬ
奉るなり王者はおろしましく國に益有事はいわし
への禮樂をあくらだて信と信となりなるまじくば其
實にしてみなかすく信とむかしうへ絶るへ神統
おやうくおろしまさむゝ先ひとへり秀吉は無道乃
御池ちうり物ぞうりわらゆわたゆきすれん帝太樹也と
ころしまさんば日本の國も又おやかりへぬへ神統
絶はてゝ神國ともいひがうし戰國は壊人道にて
くみをとめけんや人道は禮樂なくは禽獸に近からつ
むえらるゝ合戰やむ時ななるべしたゝしはえらぬと
治世ありたる道なく人心らしくは終にあへ吉利に叫

りとしる人ようとをしても天地をそむきて破れたる
なる也天運いまた年の會の初なりあり天道を
至善なり其好人のこゝろ字よこゝに有道の人云々
あらはれたれともくゝ思ふましうりけり

集義和書巻第八終

東遊詠吾奉義八

ちハやふる神の御代よりも
東遊ハ喜撰(?)へいさき高麗にて
其人ハきちんの會の始しを天皇
しるし留ハ見えきうる天皇よりも

集義和書巻第九

義論之二

一心友云、我昔は夜寝られねばさまよりて心気はれ、一食の
時ひもじければひもじきによりて或は風邪におかされ持病も虚
弱して入ぬ心術のつとめもおこたれり、然共今は是に
答云、夜寝られねば痰病のやうと思ふ人とも云、其方は思
慮多くして精神を消しける故なり、天下何とも思はぬ
何とも思はらん義に随ひ理に應ずるのみ、気着は無事なる
所を行ふべし、今は私なく天を以てする
〔 〕ぬしとも云くめくせこそものやぶしく浅はかにて
て天の浅き夫を以ちつらいくとて平人と私のみぞひかる
時を待つ我のうちにあるべきとをすると是は心思の多し

天下義よりおもきものなし何をもつて何をか求めん
むかしたるたからをのみおしむ聖人元丈同し観所なり
天下をあたへんと云とも命に換へしとはおもはじ天下よ
りも重きものは我身なれどもそれは義理をうしなひ
死しては君と命をともにしゆかんとには死をもいとはれなし
命よりも義を重し　問　後悔の心切なる故に精力を
営し忘るゝことあるべからずしかれども後悔すべくては先非
改むべき根本なりしといへども愛用し給ふべきや　云　後悔は過ちを
吉よりもしての道なり過ちとも侫しく悔ることあらく
先非の病ぬ万の根なりと云も我とひとりわくるる嬰
の今は誠にかなくなりて心気もうろうとしておもひ出
さる悔のみしてさきの心にたゝらしてあやまりをおもひでしうか

とくさ汗あり是ハいかりこゝろを過去への根伏起してまたおこし
境ありハ身よ人ごとく在也さて上精神とあり心の底まで
らそ氣と言ひし至寶と保ちくの受用すこなき也
何ともこうしれ初めそし思を以て此靈寶と號し人ごとの義
この學にて八國天下と云へとも唯まてもなしく何とそうくに
とし是故よ君子の覺照ありて思索する平人の分別
思ひ思ふよ云へとも始とく覺照よいくらか道理ふありの也
ゑもしひ人をよらぬとも我心よ不善あれハ德よ恥しく八
先非と知りそしなしとも吾心よ清く改まて今まてよ
うせこしらすへハ何の改め悔ありへこき悔ハ非と改めの發端
なり改て後心よまぐりしまてくりて非とうさなり
一 心友問て云 志の主宰ハ何とり立給ふへきや 答云 仁

義理はありとも勇なくしてつゐに不義となりて悪となる
なりの心はあれども勇なきゆへに塵(トケ)も穢(ウス)くして濁(ゴリ)はもとより
ども濁(クロ)りにしみつんと思ふとも去りがたき事
性霊明天と根ふして朽(クチ)ると雖もとも心法の受用をすてゝ
人は我よりなりし我拙すれども 同所よりかより人よりは志
の實なり これ數々己とあるよりなる工夫なりて之を専らし修
べきや 云天地の間に己一人生そあらと思ふべし天を師
とし神明を友として見附は人よりれの心なしとくかたく
すまじ 八内固して奪(ウバ)へをしとも和して二ふしべからん
一 心友同じ云今の時也して德をぬ遠を淀よおへば大(フ)ニ仁義(キ)の
時のことしとも我らぬされも我不る放(ハウ)逸(イツ)なしの事に閑(カンシキ)…
ぬまじ 八威(イ)儀(ギ)を慎(ツヽシ)む事らかと用そしてひと氣もねし也

らく秘伝はたゞ日々に心をつくるべきにや 蒼云曰
をんなもみな身よりおこりて身をやぶりては なし威儀
の情に事のつとめをするも気力のたすけなれば老年
病衰の人は叶がたし然ども つとめは一念独身の地に
あり寝ては起るをこのむ 胎より見るべくも 病者は老
衰も気つかれて たやすく気力付ても 拙くして 川ともに独
知りよ暇なくの間断するこゝろあるべし 人のみは 風よき節は
よ寝てくらす日多くなれば 行あるものも 独知は やがてする人あり
一しそれ色を忌し身を修むるより 妻を之剤 圏 を治るに
知らするし 識をまうくるのも 元なりからずして 貴賤気力強
くての勉 遺れよあるし 我気力衰ての勉も不及
よあるし 識を立て 時處位よまうくこそりみ 伏犠の

民をあはれむへし
一 心友聞記云 禮ハ夫婦をつゝしむより始る 飲食と婚姻と
以なるといへり 蒼云天尊く地卑(ヒキ)しくして礼の始なり 無言
の教たり男女の間よりはしまり父子君臣の間とのりこれ
情(セイ)命(メイ)の正(セイ)しきをたもつものたり 是よし衆人の氣(キ)質(シツ)濁(ニゴ)り
てうまれつきの心に神霊の徳をくらましてたゝしくやゝもすれは
飲食男女ハ人の大欲なれは礼なくしてハ相(アイ)争(アラソフ)ゆへ
及ふへからさる礼をたてゝ固(コ)有(ウ)の天理にしたかふて教たり
ゆふかくよ飲食ハ義ありてしかもあり 食して直ちに
ゆへに譲(ユヅ)りあり男女ハ媒(スグ)の言ありて婚(コン)姻(イン)の禮を終
て後相見ゆ父子の夫婦となりてこそ賓主(ヒンコ)のしわ別(ワカ)ち道あり
先王古法のいにしへの徳を明かにして是を設ひ父礼を立て

よくのぞみ人々固有の天真感激鼓舞せられ勉る
ものありて格物するものなり

一学者問て云即物窮其理とは事々物々よりつくして事物々の道理を窮め知ると云儀か　答云事々物々の道理といふものハ心の外にあらず意を以て思ひ見侍らハ物ハ事也事ハ物の用にして物ハ事の体なり二にあらず又倫の物あり又倫の事あり又倫の物ハ君臣父子夫婦兄弟朋友なり又倫の事ハ五典十義なり又倫の物に即て又典十義の理をよくよく窮て心に得身に行ふを格物致知と云　知ハ理なり今の理を窮ると云ハ書のよふにして文に即て講明し或ハ空に積て議論にとられ物に即て理を窮るにあらず文を見て友と云ものなりせ

よきともを以て仁を輔(タスク)るハいふに及ず仁をまもるへく
教といふハ父子の親(シン)君臣の義夫婦の別長幼の序(ジヨ)朋友の
信これなり其過たるを磨(ス)し不足を補ひ互(タガヒ)に過(アヤマチ)を戒めて
相輔(タス)くるなり今の学者ハ道をしらすといへとも至情
をしるをまなふハ即(テ)物に窮(キハム)其(ソノ)理の奥(ヲウ)をしるへきなり
らハ天下の事物の理を窮(キハメ)博(ハク)識(シキ)多聞(タブン)ならんといふと
も何の益かあらん 問天下の物莫(シ)不(ト)有(ル)理唯(タダ)於(テ)理(ニ)有(リ)未(ダ)窮(メ)
故(ニ)其(ノ)知有(ル)不(ル)盡(ツク)也天下の物ときはまりハなしといへ共物ハ
皆ありといふともその理にくらきハ文理不分明なるへし 云天
下の理或(アル)ハ言(ゴモ)りのハ斉家治国平天下ならひに其一
事あるハ天の與(アタヘ)たる才知あり君も其質の任する所を察
し給ひて其職(シヨク)を命し給ひ臣もまたかしこの天命を守く次

りのたり身を修ることよく人を責ることゆるやかに和さ
とく行篤き人を選て教を掌らしめ給ふ日本にむかし
淳和院奨学院の師ありこれらし山川池理に暁る才あるを
を山川池沢をおさめしめ給ふ物の生長乃元をさとる紀
人をハ農事を掌らしめ給ふ今の郡代のごとく賞
罰をおこなふべき人をハ士師の職に置給ふ今の所司代乃
ごとし律呂の理に明かなる人をハ楽を掌らしめ給ふ善悪
の道理分明にして直言しける人をハ諫議大夫として進て忠を
尽し退て過を補ひ天下政道の損益を知るべき人とし納言
として君言をおこなひ陰陽鬼神の理に通じ人情時変
に達する人をハ冢宰として百官を総主らしむ天下の事
いかにも理ハ窮なし右ハ只大事の二三をあげたり一人もし

惣してまつりことハ力を合謀をめくらして天下の知恵を用
て天下の事を盡すへし其不知をハ不知とし知をハ知として
しらさる事を不知ともまよはす人の知をもとむるやうにあるへし善事
を遠されハ信を満てしもせさる功成るを次第同事是の
務其用を盡して一心の妙に帰するなり天を生し地
を育む日月のつかさとり四時のめくりに行はる
なるもの其物をすとに至ては一なり又天下の根本
て心の感する所即身の交なる所和らく勤学の道も盡
とも正心修身の緒餘土苴なれハ好学の人ハ労をいたし
明辯とハ一天下の理を盡すとの人は天下を抑るれとも
未だ遠しとも又ハ難しむ事なりあらしもと
一学友同阮嗣宗ハ口に人の過失を論せすしてそのまゝ

よぬ人なり大舜ハまことに大なる事あり善を人と
ともにし人の悪とうくして善とあらはすへハ悪ハそのはらう
らうせ善ハよかぬ人の善をゆるし給へハたらきうへに孟子
ちよくりのいひて楊(ヤウ)墨(ボク)をふせく者ハ聖人の徒(ト)なりといへり
孔人をあふに悪をかくして善を揚(アゲ)給ふよ楊墨ハかつて見
所よる不及ありといへとも孔人をぬすむ人なり何ぞも
善をぬしして其悪をかくさうへきや　云性ハ聖凡一様なれ
とも命よ分(ゴン)量(リヤウ)ありてこの分量を知て命をまちそのあ
なる聖人の徳なり天命よ天変の法すれ去ハうく蹟しりく
揺くて説嗣宗ハ人のこゝ失といくらう成(ハ)たしうて人し其六
心術明ゥかよくして金丸淳(ミガ)澤(リ)てまふいかうくむ精の正気る
からく心思乃森是ろ所天理に専(モッパラ)ならしめハ人の欲の炎をうしくん

是を聖人といふとも可ならん聖人の聖人たる骨髄(ズイ)は
にあるハたゞ天質の分量廣きよりのちハ天吏たるの天
命あり邪正をわかち善悪を明らかにするハ識たる筆下
識となり識ハ言論よりよくしきあり小人の好て人の過を
いひ益なくして是非を論ずるの凡心にハあらずといへども
まハ世を救ふへしとあることハいふもさらなり孟子の時によ
堯の聖主なく下に舜乃神徳なし要量分を知の義也
盧同叟同貴老ハ天下に名紙の能大人なり道学者といへ
てハ儒佛これ老よりて同とさゐしこう志る儒老
る人よ寺同稽古のことめしてハまた人よ教稽古をとる
うむも何そ神道者俗儒歌道者筆道者出家なしと振え
よし世哉ハ彼みな行て師とし学ひ稽古や道徳乃大本よ

地あて寵めさる所ありしや謗をとらん　云愚
なる者ハ廬なり何ぞ是廬者といひて物をうるに
まん人の師たる性とあるべからんや一文も無文の師といへど
愚ケしとこれも廬者よ為者て人の師とすへからざる
しかしめと師たる人ハ損多し争いつまても人の為
よりて者として益あれまそれ道言、道徳よはさんと
を師とる時ハ室中の者ならしまむし言ハ詩書にいはれそ
ひよつてそれも弟子とる時も温恭自廬の真とを失ひと愚か
学未熟なる叔なり儒者の歌ゟもししあらり況や神
儒仏歌学の人よ地あてとや愚なる人よしられるのが
そのの人さる大事を知らく海をつたるやく自満して人の
師たるまをゑ好まんのよふさりて益なしるハ名ある和

のミかハし古人に及ばんことを思へハ千金の裘ハ一狐の腋よ
りなりし六厦の材ハ一丘の木よりなりし太平の功ハ一人
の略よりなりしと古人ハ云天下と云ものハ天下の政事を
物の我有にならすといへともまた天下の人乃知の我物な
るなりと思ふしかれハ同し我かなりとも人の知と聞ひさ
おゝ古今のちかひハとハ夫耳目口鼻手足乃能
と身ハ事をするものなれハ天下ハ我が異なるを
のあり知れと知らく賢知をもなる才能と聞て治国平
天下と思ひとる明君良相の徳なり万物ハ生し我並んで
神ハあり知れハ見とかなるもの八天なり聖人の聖人なれ
ハの徳事ハなくして大成にして古今才のまたなき
つともあり見る人おほいハ急しおのれはわつく同し

みな好て人の知を用ゆるゆゑ天下の知を我もちものは天下
の知を師とし己が知をもたざるものは人の下たることを弁
ふべし
心友同文いまだ知らず当今の都下に贅質の人ことに聖学の
会合ありしと承る必ず書にても四書五経などにてもあれ世に
も読まれることうたがひなし書を勇みて弁へうることあらし
事なれば聰明を己がすてやらん　今は孩に当りしも
と須て教人のみよりてたる講明をうまいきよりて上に近年
の宋朝明朝の書籍の明たる所見を知れるは若しく労せず
して知ることあれば心易きこと極めてもたし唐のそれ其
国の書なりともに上文をもとめ達者なるものより孔孟の後千歳不
伝とし宋朝はじめて見り世に出てたる数は種の

参するものなれとも熟せられて提撕ゆるさるれはまた
だし聖人の道学も熟せられたら禅学ゆるさゞりしに
と悲なり聖学の日本ゆく東まして時分は禅
学のさかんなる事日中のごとし

一 心友問大学の先后のことはいつれの所をもとゝるや　曰正心也
心を正しくせんと思へし意を誠にせよ誠意の工夫は致知格物也
國をへしと平治せんと思へし家を斉一家斉し天下平也
家をとゝのふ事く國を治めんと欲せはとゝのへて天下ととも其斉家を先ん
身を脩するもの主は心なり一度心正しく家斉ひ國
治り天下平かなり　同大学工夫の実地はいつれの所そ
曰誠意なり是以傳の初は誠意を前とし致知格物は誠
意の工夫なり何そ別よ格物の傳わらんや所謂の二字を

以て分明なりとおぼしたまへ
一 心友問孔子絶四毋意とありしかるに誠意と云ハ何ぞや
曰毋意と云ハ聖人のうへなり意ハ不常往来の念なり固思
雑慮とも云聖人にハ物よりさきにかまへし意なきゆへ
となせん異学の流となるべきゆへ心ハ本空なりとするに空
に観となる図上に図を接せらるゝ心本意なしとなるに
其本来のしくみあらんとせんも非なり誠意とあるハ意とおく
まての工夫なり誠ハするの時もそのつとめ毋意よりなるなり
意念の不常往来して自欺るのハ心の霊臺くもりなるぞ
詐ありてくさ〵の諸不善ハなりもてゆきて其念の霊照不昧の
全体をいつくしむことを絶去れ空しく明なるべうて次
不常往来の念とうらそふ生滅の形数をもつちまて善

悪ともに心鏡よくしめて空のなかをもつてしてこれ其
功しくくやうれたる癰の間日のごとく水のごとくをわきまへた
あらつくしさなき気質変化の期あらしめて天下の事物
まよいて吾心の明不明と覚て實に功と用一天
下國家も物也又倫も物なり天下の事物によつて我心
のまよひ不あるは是の不明なり是知善悪の良知わきま
ふるも善と知るも悪と知るも是は真知にある
もとの其知良知にあるものと云ひとしく致知窮理乃
功いふなりして精義入神の実地なればなり
其の道を為さる時は窮理のいふなりて精義神に入
これたれ此の為くひさしくいその生あらん
また入間愚雑之徒なり此一くくる聖人の毋意に同し

問如何なれハ朱子の説ハ近し陽明物を以て事と
なされ説易簡なるものや　曰又事を又物となり天下乃
事物を離れて又事あり又事を離れて天下なし又
事の非禮となるハ我身の好みより起りて我心ハ亦物なり
る何ぞ又事は非禮なりと云や又其非禮を當下に知るし
知らしむるハ自反慎獨と云又事の非禮を終に知らしむると
窮理と云其實ハ一なり　問致知ハ慎獨の工夫にある
しや　曰慎獨の工夫ハ誠意なり自欺ことなきの
ハ獨を慎しむにあらずや致知ハ亦聖人の心術の的なり
工夫ハ今も格物にあり格物ハ下学なり致知ハ上達なり
道の大意を知時ハ天下ハ窮めざるの理ハなくして
さ教のうすよ迄でも心の徳よあらはれし鏡のいかなる

さくれるをさらしめたる物のへそれすることにてらし大なるやうな
事ても聖学にはちをもてへきのことくしたまふにあらし次
精義入神用をいたすとしられし大意を見るも学知の
精義入神にいたるも入徳の功あらしては聖学の至善
よるへしと
一心友同一旦豁然貫通の語ハ異学悟道乃習ひあるによ
似たり　云へることもまたハ悟道の見に似たれとも意とこ
てひとつて己か受用のいたるに對應してみまたハさりありし事
天下の事物の理を窮めんとも心かけて一身のあまりなれハと
まなひて文を学ひ心の通をさゝる所あらハあらまほしとそ
こゝろへたる間に道の大意を心ようへハそれより後ハ天下の
理に於てそ疑ひなし儒佛によりて後ハ天下の学者

てもいくとせしなるもなかし聖学よりといへしハあくるにをし
られしも大意とみえし貫通ともいふへきか回ゑうらうね
貴光ハ程朱なとをまくり給ふましきか云ゑうらん程
朱剛強仁厚明敏の質なりし此大意をゑら給へし又賢
人なり愚か質柔弱懦薄魯鈍ならくなおく大意を知
るへしとも気質の害をうくとしてくなうし入徳の功を
勉て日久しかうされなんと離うしとうらし人ハ一夜
ようくもれいは己を百夜よもうれうくなうて剛強明敏
の人とひてよも大意とらのはちにとくせらうくうし人
回曾點の大意をみうし貴光の大意を得と同しきや
日又高下浅深ありて見ハ大しく相似ても質をを以て大よち
うひわうとくありくなく徳よ入の後気質の類みし

一心友同今の时分て先王の道を用ひハ忠質文のうち
いつれを用ひ給ふへきや　云愚かなる事なり賢
君ところ給ハく忠を用ひ給ふへきか　同今ハ文過ぬ至ハ
質よりなを宜ひ給り　云今ハ文をかざりのそ文なもわ
らまと質ハ赤文の下地なりならく忠ハ誠のみならり誠立ハ偽去
へし奢と飾とハ多ハ偽なり此等ハ除て後質へよゆくし
世ハへて文すりかる　同賢君ところ給ハく善悪邪正の
あつかふるを給ひ給ふへきか　云理に肩よりセハ給ひ給ふ之
うへ人情に應し时宜に随て給ひ給ふへし禍て大道とか
これんと母ふものハ法を先とよそへからうと伏羲氏を始てかく
衣裳あし宮殿なく禮義なし節なし其ハ神聖なるなかり
麻おしまた

一心友問て云聖賢も又静坐ありや　答て云静坐
あり孔子閑居し給ふ時ハ申〻如たり夭〻如たり心主あるさ
時ハ必しも黙然として忠信とるともなく意を誠にすとも云
人欲の妄ハ間思雑慮して必ぬ偽なり其意を誠にする時ハ
忠信主と成て天理流行さと空〻如たり故に呼吸の息〻ハ
くわく緩りなひさとよ細り緩やかにして温なり是静坐
の功なり也心に妄ある時ハ息急になりて心乱るゝ時ハ
躁しの本なり出家入定の術も亦あつにあり是故に出家
出家は呼吸の息をかぞへ数へしてあり胸に心をしづめ心ち
らくと精神内にみちて気血順流し又代初学にしれ
一朋友問て云雨ふりひとそて天気もなくとりあさしくそ
自然に身滑しては調合を失ふ　答云其らり世界の両ふ

は神の納受し給ふ所なる事なし。しかれども其志すところ
善心よりおこりて民の困窮を感じて雨澤を請ふなれば
おろかなる人をとりうしなはず米をもてその民の辛
苦艱難の費（ツイヘ）あげてかぞへがたし。去年のくれより今日にいたるまで
又雨乞ひとめしけれども三輪の大明神へ日てらずよ雨乞ひせん
とてりとうなどをさまざま三十余郷の入用は金二千両もかゝる
ところ物語などいふて何の益もなき事どもの費をとりこぼすのみ
たゞ一日ても日てりの雨乞ひよりも給ふ人よりその身をかはり
よろしく張主となし概して雨の心ざしの民のこゝろをいたるべし
撫民よりふかくして費をのぞいて行へしてやすなれば何うとかいろうく
むかしよりむかしさかりしん晴を祈りて雨を乞ふこと
一 そその原乃奉行代官国郡の主の任すなり今ハ万民の

あらたうれし雨とおもふことのみなく晴をねかふ事も
ばかりは長雨にて田畠の作物くさりぬるをもいとひ給ふ
事あれは晴乞をするなり　問　明着ありて毎事ひとへに如何あらむ
答　雨乞ひて雨降へき道理あるものハ音楽によりてハ
あつ天正にして久しく日てりても諸寺諸社のいのりとなし
ても雨ふらさる時節定よ楽ハ五行乃精神をもつて
天地をはこふ一年の十二月に配して十二律を有る四時土
用の調ありて天地神明に感通あるゆへ正しくもとむれハやうたり
盤渉調ハ北の方にして水の調子なり海潮をも吹そ
いそ池の水気をよせ集へし是も雲をおこし
時なうの野ををとゝもの火気のあふるゝはきされて水気
生しなしてもゆるゝ盤渉調の青海波を双調にうつて奏

世に双調は春の音にして木の氣也木は火の母なり水の子なり水火を剋(コク)されたる木のためには母なり子なり木はなとて陰と火氣とめつらし覆されて雨降べし大原野の神前にて樂を奏せし事ありてはたして大雨ふり雨ふりけり同じくは神前にあつくといへとも猶しらるゝんと云ふべしとられど天にもさくしる神なりてさぬは又双調の青(セイ)海(カイ)波(ハ)は此雨に乞ふしむることもありされるいつもそしもわきて雨ふらひに用ひ給ふ理に叶ひそはぬか

一季たんと申は夜もそも雨ふらんは樂を用ゐけり

一心安らかと一僕(ボク)に持せて野をゆくるに遊ぶ若きは文武士の別名といふ取とつてあるに何そこへうして物語くるや一僕に草(ザウ)履(リ)ともおちるよるとをかしう思ひするとゆり家

さなくは武具にいへる矢しらすとことはしらすまよく〳〵
なりてしかるも直にはおもえうしを古は大将軍とかきを
人みなかくせ給ひしゆへ家の大将中将少将も武官なれは弓矢
をも身にそなへ給ひて真にさへ矢箙等の胡籙をもおふ
しの定にてみな射手なる人も山野にして狩あるひは射る
時なとものなかなるもちひありし弓矢の秘傳もありしとや
不心懸のいさと承りし古の人は篤ありしにも弓矢とるは
にお木の葉よりも見さとく間と様見矢とも射つ甚く
つまあくりと見て間とすゝ戒なかれて間をとけりそこ
なれとも矢のちからもまされは箙常に身をはなさし武士とはいはれける
馬をとゝしいさゝかも武士にあらしと心得も用をなさて
折ふしも意にあらしと云弓を射とるよくのつゝきれとも

此る武士ハ立ゐりさ給ふよしつゐしれりけるハ誰ヵ嗜ゐりけん
者も弁慶のとハ武勇のみならす武勇の業をも嗜ける
アるとき日弁慶らを云ハしめよとなんいひける
あたりの武士とるのハ武藝ある人ハ一通りならず心得て嗜
事とも皆ゐれ今ハ鎗とゆミの武備ぬよそれぞれの事と思ふなれ
それハ理運の事なりとハれ嗜むとてハ武士の野人と云ふなり
なりの知行を給りて優なりとて好みなれハ多蔵云とも
むつかしうて世めて御恩をも報せんとてれあらくしく廐この
様ハよせとも用とするところハ武官の居しを示れに
好しき所ハ貴賤の身分にもよれらあるべきなれば
向しむは我が為に一色をも好まぬ人ハいかにもあれ
へき示しなハ女も身もよるけ長袖と身を果し候う射手一人

あそハ所よもり敵百人ふ手をくへし天下の武士名を一え
よ弛よしつりハいそゝ日本の弓矢よちくなるへし太平記
の時分あるも此らの法あらし都ゆや楠正成も射手を慶
義しそちとをそめ王しこと見てこの今をも志あらん
士ハ名将と悳あるしむへうしもと
一色交関尾ん宿ハ夜ちうを小失よ物をするをと戒妨ひしたる汽
弦をはりし今時の武士の他法よはつもしする一僕の
小身ちんハらえもあたらしし去ふ迎ゆら武術も古らもやむ所
をしめに何のりあしんや日見ねハ武士のちら矢とそをよ乃
大義とむかる道をりう法りましく今の門とある人へ
うくれらうほくるる隣おわるいへ年つう物行うまる何の
なくをうなくうそくるるて人の国よえをしあらん小芥一人よまらえ

そもそも侍らん猿のまねも時宜によりてよしとおぼえの
彼らは不あるへきのさゝつて不変りを世にかはらくく
さるからも出さ給ふとありていはつちら矢を紙
よみ給ひてりてとりかいへうからさしまうらる矢
を八幡大神宮へりうおりし給ひと神慮にてあり
武神の余なりき信の誠明は今の時なりと
一そもそもかうしても国にまかぬしあるへし世界には我名乃
誠よりうるまれし我世界とかゝりのなり
一心友同じく秀吉公無双にして天下をとるやうなる人
ようまいへさ答てく秀吉公をさしうめんれしなる
らるさはしなるり濃州宇留馬の城主大澤次郎左衛門尉
と信長公の味方とれして同道ありしに信長公大ほうりける

方よ怨ミてあらむと察しおはしまさうらん此度さいはひよ
急しこの語ゆり秀吉きこゑておそれ給ふにも許容なし
もし附秀吉宿所よ御語ひて大僧をよひよせ最後の所
のそよむかしあれはこそしかり我を人質よとりて急き遁れよ
とて大僧よ刃をあてさせられけり大僧むかる剛なるものなれとも
色前よてをかけしらうむかひむかりてよはつ将の人質の
ことくに脇指を抜秀吉公のむねよあてゝしめて其所を退さ
りと是しゝ彼敵味方のあいたひねとも吾とともに誰も信
してゆるしおかりこころこえ人と味方よなしつる佐と
あらへしとも微ゆかなる時は一命をうしなはんとしてこゝろ人
質とぬしにぬら紀行もしらくて仁義をよわらしく人
なれは天下まつことやうまよ国にも今あり此は不行儀

道は教ゆべしといへども道を知りたる人は天下
太平は教へしゆゑの道をしらで只人情のみに行すみ
思ふやうにもはかりがたし乱るゝ事もあるべし去宗は勿ゝ堯舜の
治といふとも思ひ給ひて孝経の序にも書給ひし
政のうへにもあれ後漢書の紀にも是を記し聖人
もしは心憔悴とのたまひたり
一　學み着冠衣野と聖廟とは聖賢の怨怒の心を
おこし執事の怨霊としたり崇とをいふは大乱基
おこし執着あるにてそれを神としかつぎて其わたりを
仰ぐや　曰或世の傳はやはり菅公の怨霊を
崇とをいふものならし配所の詩に去年今
夜侍清涼秋思詩篇獨斷腸恩賜御衣今在此捧持

毎日拜餘香此詩を吟し給へ誠に忠ある心ふかく感慨多
きこと其人と見奉るへし怨怒の心をかりかし然
れとも孝子の怨忠臣の怨といふことあり平人の不知
而也小弁の詩は孝子の怨なり孝子の心をしてハ
ちゝ逆ぬる事ありと古人もいへり菅公の怨も忠臣の
怨なるへし忠臣ならして笑はれぬ心ありて雷となり祟を
なし給ひなとしたることハ菅公の霊よりあらすと天も其忠臣
の謀と感し給ひてこそあ給ひしものなり周公の忠と天も
なさんとて大風吹し顛り同叡山よりいて又学乃
師なりし人とものとも給へるに叡山なりけりしかは怒て柘
榴を口に含み吐かけ給ひしかは燃あかりて妻戸焼さり其
妻戸後世まてあるとて節あり是ハ云式の給ふせいくほ

あつかりし事を業とせられし大師空海と守敏との古事
の事なり空海と守敏と威勢をあらそひし守敏天下の龍
神を捕へしりつかたる水瓶の内にこめおきて大旱をさせ
しに空海北天竺無熱池の龍神独守敏にとらはれさりし
を請して雨をふらせしと云へりまたひとつ文意の所は気
化をもつて雨ならしむ七八ヶ気化の雨なれはりて名立を以て
国邑草木をうるほすのみ也又名立をかるに山沢の気を通して
雲雨を起こしむる郡をうるほし村をうるほして山神の気の送
る所にあり龍雨の事をなして雨ふらすなら
是をいふなりて遠くゆかれは其雨の跡をもとめ雨なれ
龍のなすと思へるは理にもあらしそれ故に是を以て家伝の術
いつわりなるへしといふへし自然に旱して又雨ふりくるに

無縁の行かゆへとてあつかはしかる類也武門のともから
はゝる人目てらりよ無ちうしても其は空海いのりて恐りくる
事もなくしみ寄敵と空海とくらひよ調伏しせいろを
あかに雙方の佛神のいかに空中よなりや也はつい
念り空海の書とかう書とみ上ハ佛学のこうしと儒
学ともわりさ同しの我慢邪心をなくうしも其上佛神を
いのりの邪知我慢乃きんよらしへてこれ佐合戦とあ
是申さるゝや空海と鏡りかむつしも大悪人とよろしと
とうても菅公と差しいそしあくハ悪臣の疵と付給
是を不知其時方の主の事をまゐらす事なれハつりや若書
広くを讒授しせハ仏の如やあさなるも知へしもとこさ
ろりよ出るく濁る川水とあなんはけて通りとううるる

なる故に紀れよし他の信をもうしなはしむる事なきよ
然るに幻術をもて水をさかさまになかるゝ様なる人の
目よみせる事はありとも其水はいにしへよりさかさまには
の流るゝ水を舟をもて車のごとくすゝめたりしより理にかなはざる
事なりされば空海を正法の奇特なりといひて正法と
たつる道理なきなりたとへ左様の事ありとも邪法なりかし
さる水のさかりてみぐるしからぬあらはしまことにかなへず
わくの事ゆゑにかくのごとくなる天のいかりふかく雷の
甚しき故菩薩戒をまもりても恐れ山の僧を召ていのら
れけるにあらずや一向天神の御手段として佛經世
に流布し佛学は性もなき人のみ又聖朝をもかろしめんなり
に其時にいはれて聖徳乃またりけるをこの世にまもれりへつまる

すく只将く物と云ハ代以てその同しきりくもの甚し人の法
業とみえて聖君と云り仁君と云つべき也菅公ハ文海
の道正しく天取り給ひしより諸天下太平の政道
すりされて聖廟といふ人々親ひあるしもとめしき紀
書の点までも菅公付給へるよし聡明の人なくあるべし
天照太神の御子孫といふものせ相行くゆり空海の伝を
中にも人とも崇むもこれに同じ筆多し一大度とも呼べ
令ハ万大聲と呼びを呼ぶりつは理と云しへ謂は実なり
と申すなり
一 学友同士路を為すことも衣服を見し善服を見し
ある者ありてこれもひても不恥をいふ名ともさぶらふこそ
また六十年以前まても田に貧乏なる者も其まじむこそ

とはりの備浪のことくなるこそ能ならしめいてる如く龍をとるに
なれく男氣らし武士とし待らるゝ今ハ勝手よろし紀世
ともに不自由ぬ稀として備浪のことく売もありとりて内にてもる
着服と袴とけれ公魁へも踊ることも物を尽を以扱なりと
路のわかれ用ひてなしと古今風俗ハうつりかはれ侍也
今備浪ありしなはれ着多しうこそ多くハ損多しこう
女ハ有銭ハなけれとも備浪ハすく此者とこしなくハ人
なるハ富有なるも成ことえるゝもの人の非義をもとくひ
かゝとめくらは惣して得ることにも浅ましき給まい有銭なるも
こゝ損なりと云もうとも備浪ならぬなれ世俗よりもよしてこそ
かくれし名付なく人もあやうに神作り此者にては不
時有し浮れとい笑ひなることハいつもへはつハ又ありとえた

備浪ある者あり此者無欲にしてほこることもなく
侍人どもはひて不足なるもあしくは備浪なることをしりしよ
聖人は患難をとめくまは下の困窮をとゞむるにより
百姓の飢寒をもとめずして親類知音のよしみを見
こと無理なることも下人は物をもえしらず世を揆し
きこゆれば不仁なる者のことをして礼儀のほどもなかりし
仍て禄は備浪あるによりてふかくなりて恩賞人の敵よ入来
人のそこなふこともおふくすることもとして備浪たるは右の備浪
するくあしくはかなく礼儀のつとめもいとはずして其
を退くもして年来の[illegible]もゆるくなりて人のうへに
備浪出来仍り僧浪すなはち乞食をしてよりねがふて
如為にしては此ることよ益多ししと人無はとへ[illegible]二て

世中よもころもおさまりて彼に傍らなるへし對して云
この名よみの勇をさむらひ大勇力の人なりしてを世俗
邪道のそしりよかまたへして獨立しりて一仁義とこゝ、
おろかに殊にありのたら君子柿山伏(カキヤマブシ)の往云とも見へたり而
癡つこ理なりけまてもんなりんともしるへし
うけまてもんさんとたしと毎足人のかゝをまうけ
のことありて定見なりけれは如此し
一 心ハ同異先六藝(リクゲイ)を解して御(ギヨ)ハ馬術なりとかとく語
あるをそしる義あり御ハ車御なる術なり日本にハ乗馬
の術にあハさるとしるへり 云稽古の人もしも御の車法
ある事とハ知かたかるへし日本まて六藝と云時ハ御々
乗馬といふ也出雲まてりけハ上易経(エキキヤウ)にも服牛(キ)乗馬ニとあり馬

術の始ハ乗馬より車へ後世文備りたる時の制なれハ
後よしとのへとも五湖乱華以来惟知鞍馬為便利従萬
乗之尊猶執鞭上馬とのへる時ハ今ハ乗馬より物の盛
衰わり車御ハ盛なる時の法なり古人乗車之中不内顧
不親指不遠視行則鳴環佩在車則聞和鸞之式則視
馬尾自然有箇君子大人氣象とぞそれの盛なる時よ
生れたる君子みなよりりし如此よてく大人ともとい
ハて舜の野人たる時ハ蛮人ともうてしきる所伊尹有莘の
野よ耕し傳説傭史のあとを隠しし時何そ此術わたんそ
是物ハ始ハ質素なりて盛なる時ハ文備りて衰よ及
て事略と始と衰と其事業各別なれ共物盛なれ
ハすたれとも縁てとるへくハ始よ返しゆかし矣

車戰の法は後世絶して上古の服牛乘馬といふも
而して後ゝるのなり然るに今の人は騎といふ時は御を
乘るなり日本にても義經義貞正成なとの騎戰を
用ひし上代の車戰にかはりし車戰は上古より利
あり中野等にて騎戰なる時に城郭ある陣屋
騎戰なり下手なれは騎馬にてまさる兩年の騎戰は上
手は逆に勝利あり下手にてはなうまての敵を逃
代にあり之を騎陣軍に分りて馬軍にわかる義經を
打物の達者つよきは手なくとも十二人もなくつよくて前後に
右にも立て抜出の敵をうけつゝめ蒐るゝほとにて寄
きり義貞正成なとはみな義貞は千六人正成は二十一人
ありしとなり騎馬の兵も相にも達者なるのの一

将たる数千の敵にうけあひ本とまりて名をおしみ討死
よのつね一生涯を全くまもり源平の戦に平家方には
悪七兵衛景清越中の次郎兵衛なとしいふ一人当千乃
大勇力の兵二十一騎まて木戸を開て出しうとも鍬形
みがゝれ馬にのりて達者なる武者わりをいれ令を合せ
おかしわさもして背あてを切られ事を懸まし
けり日本の武道なれも盛衰あり今はいにしへに及びがたし

一 心友問至理と書しは文にもなき書なれとも世人かくいひならはし
文字ある人は經以見にあらねとも是をもつはら書と漢字の文
よむとせん唐の書はよまれぬなれはまねしとまて道德を
まなぶ人のよむなり假名書と道德を知らる人の為に
好まれぬ書なりとはいへとも人よりてよむなる

文書よりは人の思ひの外くはしく候なりき云々　答云これ道を
聲をなして奥ふかくしてねをとり思ふに及ばす思は言に
のべがたし言は書に盡しがたし漢字の文章にて
なほ深理は和字の仮名書にあらはしがたし又ひとも
其上聖経賢傳は昔の註擇なるか理を失ひしとや知
まして經傳と見る時は經傳なれとも君子も未と成ぬなり
經傳の文乃さへ深きとりそめても理を口上のまゝ
くりまでも心を失へり文の奥義も口耳のさかしらとなりて儒家
治國の用となる事なし是正心脩身の實学の所
なしこれにかはり假名書の直に理を発明して人心の満
をひと解人情時勢に通して心思を内に向はしめ儒家
治法の用にもなりなんは此にまさりて益ありなし治学

むとなさし後聖經を見れハ聖經の文理皆内に向てむ
法始くめくし真字に聖人にましまするくの顔懐あり
聖經にわかされた賢傳といふも及ばし況や假名書
の奥義を述らしれ文とかくとしむも如くしの義也
中れくと略しそかくとらいしハ及ぶ通もと和の云成れ
の此節多し和字の書にハ道理を述へし為理とかく
まうくし初に三十一字の詠歌につらく和をかくめん
ふきと吾國の風の故なり及らひ在ましくしばの假名書
も此ゆとれとうらんにいふのかうてむ道理ゆゑうへき物あり
漢書とハ深く云て見和書といふて有ひて見所に從
文よりつらね和書あるもをもむがしくえりまぬ違
の人々以て經傳の文理をまてわきへてく道とたつる

者多し書中にむかしところ仏法に益なし又真を假
て假身にあらんともするも思へからも法に落て仏法を不知人
多し如此のたぐひの人乃至みる書は漢文に書も見ゆ
あしくさてひれまのみる書にして含む称ゆるしと云
ともに徳と知らく文にたる宜と道と見らく法に落とゆる而
實学するし人を信じてゐる人からみ実事にあらしくへし　天下
古今の文字をもとる人あまくのたへしと以て実学を
修する人あれなり仏に實あるも法を不知殺に道学の日用
に役あることなし　和書とりとしても人生日用の受用
無益あり斉家治国の備に役ありへあるへからぬ修此仏
を修く後経傳に見たる書られ我心の経解くありて出居
とる而紙絶へし

一心友問柳下恵の和ふと清ありや　答云清ありあく天
質残つく死きてゐると所和よあり無作法不行儀の中ゐ
居て汝ゟ汝とせよ我ハ我とせん此安そふく我をきうさ
しや是遜よとれた緇すころの垩たら清ゐまゟしら紀
りなし　同なく、伯夷叔斉ふも和ありや　云和あり
くみく天質清ふ多のミ無欲ことで我かしく人と争ふことなき
ハ和ふあらしとや孟子ふ悪とふく心のむとおもとと云る所と
おりく思く伯夷を清ふ過ある人の様ふ画くり孟子ハ古心
根の清きと察しきりあそひへるなり悪されし詞ふあるなれハ
一心友問天下国家の事たくさくしおくいもと上ふ居人無為ふ
めて治むしめくかく人世ニ孔為事ありハいか行及ぞ
無為とかふかへき　答云世人為の人為事あるを無為なる

る也とくり給ふ瞶（ツン）に理なりあれは天それ馬を使ひつ
いへ行り人とそいふなり天なりし人の理によりて
こさ私意とおもへさらは是無為たらし事の多少動静に
をのつから出来く労をへゆく時に労せすして閑居ならは
無為にかへし隠居（インキヨ）してゆかしとふくもへる時に
帯て出ても世間と交りも無為なりあらは皆君臣ところ出さ
して私意におもふものなり馬の尾を出し時に書して
かひやして不出又の屋へ入りし時にとりて不入
うかゝし是とらせるとて無為なりあしと人を天理の
自然にまかせく我を労し我を休むとこそ間に私心を
へされを無為たり君たる人乃時取修りまかせく世
事とふひ海ひ天下国家浄清行なきを為なしく

活とらよ

一心友同議論講明甚親切り道理くはしけれども
その術躬行の名利乃変りあれは何ぞや
善云ふ法は同学のあしこころ説にいはしむとも
色のむねふところ異なり山肉にむかふ時は一云ふあし
てかし精微とも済んしるみ所向ふのは千言万語
の親切なれ講習をすゝめてあるし説話のとゝあし
て精微に入ことあるのそれ名本は凡心なり何ぞ名
利をすぬるさんや　同心いろしで肉にむかふつゝや
云ふあまりひとつ君子の心ある物より肉にむかふ時も他の
学者は凡の見て分明なる人しと肉に向ふ是人は学の時も
学者の心自然に肉りむかふに向ふ人には学の時も学は

一 是れハ自然よりおこれるむつひ去親切の心術へも泥み有
むつふまじきそれ如是意をもて意を傳ふ言語の及ぶ所
有わけし事

義論之三

一心友難て云後世ハ行ひかたしむか　答云此言當れり
小道よすれなからも聖賢の道徳を学ひて思ハ獨小ならたる
死生一貫貧富一致の理をさとり天地万物をとしい
あてし事ハ人生乃本体備事う名小あらん理よ大小的
家をも天一大虚なり我小をいくて地位萬物至せめ
心喜ぬこよして悪なくハこの世よ生まくと荒霽
の民也万物一体乃情ハ人の天をけてもあるき
志道もあるたなけくハ非也命賤不知也

一舊友問日本ハ武国なりとまよ仁ほと云ハ何そや
武仁國なりか故よ武ありたる仁者ハ必勇ありる理的

恐からすやれ狭ハ勇國也拯迫たる不仁行ふく禽獣有
進し窮着ハ必しを仁おしへの至云海しあしすべし
夫仁ハ人也心の徳なり慈愛惻隠ハ人の情なり無欲
すなハち為ハ人の本也されハ其心万物に一のやいはさうなる無心
なれバ仁ハ万物を同じく一体とする故の無欲なりて動
に公私を付くもなく無我なり仁者ハ楽山也とハ仁
者れ公私なしとして山のことし無欲なりて静也
知者の楽ハ水なりとハ知者の心をさとしいふなれば水ハ
ごとし源あるところハ流常しあふりハ神化の用へき
と云知者ハ無事なる事なる流水の物に障る内暗
かれて外明なり大知ハ愚なるかことし泥土のあま
きらし濁るを浮るハ終よすめり減の方ありへたるかな

なりと知者ハまどハず勇者ハおそれず仁者ハうれへず知ハ明の
至なり勇ハ義の徳なり仁ハ生の精なり此三ツの者ハい
のちなりし
一 心友問むつし漢よ黄老の道を好て清静无化の道
たつとしと云ふハ異端と亦用ゐる益あるか　・答云陰陽
を和調することハ実よ倹節よあり孔子曰以約失之者
まくなし世に愚をなす黄老の学者なりとも清静にして
欲をすくなくすれバ難ハなし縁りふかく栄利を去ことハ皆聖
人の一端なりと老子云学道日損とて道ハ天理なりと学
ハ習て明ますることの我なりと天理よ去ることひ習て人倫と
明かならす時ハ人欲日々に損るべく而を学ぶ者ハ大事他
して世事あくなりと世事ハ心をとゞむるなり多ハ日々に約ふる

帰し奢ハ日〻に倹に帰すへき也みな日損すれハ義也損し
盡しての至ハ心太虚と成て一物なし是をよ思ふ事と
あくする事を却し思ふところ文理なる絲思ふと却して
いふなと事みな礼儀なりとするふとも也にいふ人
欲ハやまさるかゆゑなれハのひハ文理を失て妄念也な
まハき八礼儀よたのひと驕吝也なり　問倹約ハ一事ハいう
行くわ陰陽を調和する小也へきや陰陽調和せハ風
雨と民の聚よまてくらんや　云倹約ハ無欲なりと上
無欲なるハ事こてぬる者ハ財をたつ也
ひと財をつひさる也あれむつることは財をあつむる天下に
散てし民とたから也ことハたのしみ也さる也ハ損争ことは
井をはりてく水の田を耕して食とく五穀のうち多く

生して衣食乃みにして人よ不仁の者何ぞと思し召さば
とを盗賊乃乱絶する時ハ刑政用ゐる所なし衣裳をたれて
天下治まりし道禮楽乃質也寔に初て学校の政孝
悌忠信の教をなさるべし儉約の義を道とし盡せるを

一朋友曰吾心さる人文学を好めり常に武士乃やゝ剛毅
まさるべく文書乃ことを嗜み静なる所行なる学者に似たるし
奇特よ思ひ侍るを　答云剛毅なるハ静かなるハ尤よ能
事なれども道にも文書乃ことハのみにあらず学ハいかにも
公家乃史儒ハ出家なれども行ふハ武士もいふそれハその
門弟ハ真ハ然とも孔子の道を孔子を書く事とハ云ハさ
つとる士大夫となりし古よ文武を兼備して射御の道を
得給へり文道をハすてゝ武藝ハ不得手なりとハいひかたし

らん其わざをもきらひたゝも天性の生付なれハ不苦(クルシカラ)ず
公家にハ筆なくてハかなはずかしけれバ文学者の右筆の上まで
武家にハ武芸にいらぬ奉公なれ共其家を持
ぶか様ハ農工商になることをそらさぬ事と知らず文武を
の務ゑしてハ不叶平生なこゝの後に居すべき一向つと出ん
さるハ其良知なるを本ゝとこゝまれたるも知れぬ其業
をあへて其つく生まれぬ者をましとへい此世の天性を
我分ほとの家ぶ身私をつくさことなりとも我家よう〳〵から
なる人何を見ても川をおけて土木のかゝ勇力あり
て武芸よ達し武士の中ねもゆれなる土なりわ文例言大
臣にハまかなり心ハたゝよく風まそこわり諸士
の上よなくてハのかれさりかん人世道をばとゝ徳とたて

こたふべくもなし無事にして同くなるへき人ある也
一心衣同敬を不憂にする一度何のかひもなくあること多し云
何心とたかきハ人心の常也敬といふも戒慎恐懼にいふハ主
意なるを常に心にあるを持するにあらしを敬ハ心の徳也
須臾と離るゝこのしるしハ主意のむかふ所異なるをもて君子と
いふも小人といふハ外より向て人の見きかする所のことを慎む内に恥
さるを離るとし云則ん是也君子ハ主意にする所内よりして天地
神明を師友として人の見きかさる地一念獨知のところにおひて
戒懼をなし是を慎獨と云己か心に恥ていふをまつ所を慎む
するの内よりて不善をなさんや義にあらさる
随て好悪の欲なる時ハ天理常に存して敬ある大なるへ
故に只敬ハ一のミ外よりむかひ内よりしうふ見ゆ別に君子小人の郡

一 ゑて所あるまし

心友問夫仁者己欲立而立人己欲達而達人とハ何といふことや

云仁者ハ己に行ること也凡夫の立身と云ハ己一人の為にして人の害の

ることをハ察せす只己の欲心を達せるの也己ある事を知く人ある

ことをしらさるこの故つよき事を得て民に済とを失へり君子ハ己

施に仁道を立一貫の身を立道を達し故つよ時よ達て志を得時ハ

為て天下と共にし時よ不達して志を得さる時ハ独其身を

よくして我よきことを人と共に人を達せるの道徳ハ済施として備

まりうる国天下の困窮とせることハ君子の困窮也して達せ

されハなり 問能近取譬とハ如何 曰中庸曰子曰道不遠人人

之為道而遠人不可以為道詩曰伐柯伐柯其則不遠執柯以伐

柯睨而視之猶以為遠故君子以人治人改而止忠恕違道不遠施諸己而

不レ願亦勿レ施二於人一といふ是能近く譬をとる也又斧乃柄をとるは
則とする持る柄を手にとるとちかきハ甚近し然れとも
人作りて二物なれハ猶遠し忠恕乃道ハ是よりも近き
ことわり人を以て人を治るハ一人のやうなる事にて心乃天理ハ
天下一貫なり己が好む所の義理ハ人も好み悪む所の不義
ハ人もにくむが故なり中心を忠と云中ハ天下の大本也天理
自然の真を中と云如心を恕といふも天理自然乃真心乃如く
學問用ゆるに違ふなきを云故に天理一源の真を推て人に及ほす時ハ
中國本朝といへとも違ことなし後来の習心私心私欲を以て更
とく兄弟といへとも墻に鬩く其喜びのさかひ人に能近く譬を
取て忠恕の道を受用する時ハ仁の方是より切なるハなし
一心眼同攻乎異端斯害也已孔聖の時ハいまだ道家佛家の

学者なし何をか異端との給へるや　答云六藝をも亦異端なりや藝におゐて時ハよし一藝に専よる時ハ害あり一藝をもつて道のゆうけかたきこと〳〵ゆらをも道徳をわすれらく藝に遊ぶ者ハ君子なりさ大道をたつとく藝によりて道をみん者ハ是ハ藝術とておもて聖賢傳受の心法をすてを武道の外におもむきとなへする道術者以小道自溺といつハ外にむかひ空をあらしつて心理にかへとなしいづれの藝をも上手にならてハ道の一端不合同せぬとそえるとあらずハならぬへの藝者にてハ何なる士君子の事にくハ大なる害何ぞ文学に遊しそ經傳の上にをあそく道をみん者も亦同し夫大道ハ五典十義をおさめし心を正し身を修め五等乃人倫の外にかさるその也佛者ハ五倫を離れ道者ハ五等ハ試

皆すなはいつまても道乃かなるけをハいへり是をかふもと異端といへ
孔孟以後の儒者と云ものゝみ異端多し五等乃外へ出
ころなからとし
一心友問君子ハ天をもうらみず人をもとがめずといへり然るに
み詩ハうらみつべしといへるハいかに　答云天をもうらみ
ず人をもとがめざるハ富貴貧賤悦樂憂患すべて人
生乃順逆みな命にて己にあらずといふ事なし是を以其位
に素して行ふ其外を願はざれハうらみなしつゝ獨を慎
むのミなり詩ハうらみつべしとハ和光同塵の心をもて
奥よりおもてへ出るがごとく人とも友とすべし禽獣
木石とも友たるへしうらみそとうせんすへく見て而もとそ
心をたけしくする時ハ和を失へり衆人愛敬乃徳なり

されは詩を作り哥をよむへきことなり風雅之
きこと風雅とて言葉をよくいへ共半はかりも知とも又
ことくなりこのことき詩哥よの中につきて著罪なくきく者戒む
ふよみの道ある徳あることき高明獨立の地位にのほりさとる
のく俗よ同しくも清淨明白の心思を歴つらけく世と
ともに進退をともにせんとよもまうしむまたさらん
物さかなよ子を愛してはらへの言葉をとりし
をと異よわたしへわたく詩を作り哥をよむことこゝの
うちみとてなるとき悪温和のたゝふらむにすなは親しく
すまし作てなきにわくまて心へ神明不測也ホにまさりて
変化も自然の妙なるに

一 明友問て云江西の学者感應篇をよみ又誦經の威儀を

勤めることとてこそ世人是を笑ふ者あるゆへとしてなすに
答云あやしきかな細工の志あるものハあるをつまそことをひてわるく
馬の家習をかへ度々蕃るにあらし聖賢傳受の心法の師なく
くて中江氏初くさいへるにこゝろを称まろく試らるゝに心法の受
用るたけつわらことしてなすは取て受用してたるとを求めてもの
ふ人のしと全くよしとへいたゝけれは是しかと志のたきとく
なり和か家にハ誦経乃威儀なるまし習の過悪をとゝめり
に記しうるこゝろの感應の篇あるは家をもて志ふく用らま
こゝろ紙捨して百日の過をとむるとひ善を道たるとをあつむる皆細
工ノ初めく事ハおのからさ道しかとも志すよりも過しかは悔てら心ふを
人偏に物をうく如此乃事おふろくのは志ハ殊勝なりとも異端の
流によりて我ハ不用なりと我母三経の初ハ威儀を道とて見るまし

一 せきつゝしみつゝ聖賢の神せと祭祀するも義ありやと
或問敬鬼神而遠之と云ハ何と云ふことぞ　答曰鬼神の徳を
称しては敬礼乃心厚し身の潔斉心乃絶すくそのおこなふべく
つかまつること、かなハぬ其上神ハ非礼をうけ給ハず義礼を侍て祭祀
あるへし又正直の心真実なる時ハ後に祷らすとも猶心のうちにて遠
ざかるものなれハ鬼神ハ鬼神として禮をまもる者ハ誠敬乃つとめて
つから遠ざかるなり遠ざかる也と云て一向に泥へきにあらざれハ
人ハ鬼神乃名をきゝて知りて徳を不知是故に身の盛服心の潔斉
をとゝのへ令をしたくこたるまれなれハ近付ものなり　問其ハ鬼に
あらずして祭るハ諂なりと云ハ何といふことぞ　云義を
すくてこそうれ勧請乃宮社多けれ皆其鬼にあらざるなれ真
實正直の心より神明の徳をあふぎ奉るまでハなく欲心偽

珂ハ者ともも神明の奇怪をいひきくみなされ取たてゝうるゆへかいぞ
て福を祈るハ皆諂る也　同庶人ハ其親ならずして祭らずと偽る
伊勢参宮し其外至尊の神〻へ参詣ることハいはく　云天子ハ
天子ありてハ祭給ふも法とさゝをかゝしまつても庶人の天子ハいの
して其感の臣下とあり祭ことハ其人なくしてハ成がたく祀ても也感ハ
徳とみえてぬきよく祭ハ政ハ親の為君のためなすべく誠の心ある
よりも伝たることハ祭とハいふ也みだりなる祭ハ諂也とそといふ臣
祭られハ　同神明乃罰利生と云事ハ慥成道理なりとしるべし
云たしかなる事にて何んぞ私也とも正神乃罰利生とす邪神ハ
罰利生とハかゝわるまじ神明乃徳ハ不測也なにとて約束あらんやと負
凡ゆゑことハ臣　伊勢大神宮も霊神もそれぞれにしゆかんあるて
の心小ゆゑゆゑ利生無しかれともなきにハからのことく諸人多の

何かしなきことをもてあそふ事なく術数のやから曰よ
見ゆることは必ず道又なれはそおろそかにして正神の奇特あらはる道
天道の感應をまつかくのことし孔子匡と云所にて人をかへまもく
殺されんとし給ひし時大風起て敵ゆすへしてるそのたえど
吹たをして退かは敵篤ことくよくうんけまとは心かくる者にてハ
所し其時匡の者ともたゝ前来退来て是天道の助也又陳蔡両
国の間にて圍まち給ひて七月食絶てたえ給ひぬ此時ハだにちやうられ
ん人の神の作る理をあらさる者ハ此時にも無をあらはし
おもんはかりしてらさるかあとの天道神明の理なる異端邪神
邪力ハかやうの所ふもま求をかつりするにも紀もなし又ハ方便説か
ことしけれとも邪神の幻術なりけり正神の常にはあらさりけん
一 学者の問て云我国の同志夜かく會をもて静坐議論を

益を得て止可宜之 答曰君子ハ無欲を以て静とし行住に
亦不静坐なり何を別に静と云ことのあるへきや心思義理を尋
ぬる時ハいふこと皆義論なり何を別に議論と云ことの有へきや
其上夜ふかく及會合ハ直に主君家門の者九の労まとろのこ
るゝ此宿の家門の者も亦主人の帰を待て不寝夏ハ蚊虫に
られ冬ハ寒氣にいたむ十人ハ十家の者を労せしむ凡男
女百人の非儀也陰陽晝夜に動息ことわやまるの事也
晝ハ晝の飲食あり夜ハ不時の飲食あり人の産をやふる
ことに七人の差とやかる時ハゆるし者数とましれつあまり
不民の違義と成ぬ下男下女まて臨時の飲食ともありぬされハ
君者以下人と成て云云君子者の者わりも濫し佛氏も後五倫
をも離れ五等をとわく学よのとかすを居者ハ之を代書とすまし六

各別の事也五倫ハ五者へ五等とわけの八ハ条(ジヤウ)目(モク)あり昼(ヒル)ハ動て
色ハ体正しく天下の教ある事也夜ハ晩ハ静まつて道と身と守り
古よりハ聖賢(セイケン)かくし出る学にいつミて惑(マドヒ)をすさまし術を求め志ハ治也
朝暮(シンゴ)後日中晩(カレ)炊(カシキ)の後(ノチ)或ハ夜なりしハ春夏冬ハ初皆まれ秋
ハ四ツ時ゆゑてもろもろしわざなしこう毎(マイ)日毎夜にかくしてハあるべし
うけたまはりける所をハ毛頭習ひ是を始め我近比會(チカゴロクハイ)にし
けしからぬ益(エキ)なき事をなれはゆる故に文才ある人ハ書を読
まず得し文才なき人ハ書(シヨ)簡(カン)議(ギ)論(ロン)の集をよく惑(マドヒ)を生じ
ますます心法をたかくの便にて甚だ折(ヲリ)々の會(クハイ)ハ益(エキ)なかるべし
一 学者の云先日我友(トモ)格(カク)致(チ)の心法をうけ甚(ハナハダ)親(シン)切(セツ)也と是非(コウコ)に来
たらまし　答云先日愚(グ)ら心法の受(ジユ)用(ヨウ)格(カク)致(チ)を発しられたらん
今日ハ吾心空にならむ所ゆゑ不審の人のたつねへ応(ヲウ)じ我胸の

時はすゑて感ずる所異なるといへども或は至善の語につきて
発せざる時をいへり慎独の義は発する時をいへり皆自然也
今作為しくいはく親切の語をいへり記憶は学にいへら
ことはり定ていはんよりをればいへを

一学者問て云静坐しても事をなしても間思雑慮多し
て温和慈愛恭敬惺々乃本心存しがたし此妄念去るべき
ことわり承るべし　答云温和慈愛恭敬惺々此本
を亦気象也発して節にあたる時は和といひ重し此字
の名目を示すとあるは大本を中と云ふものゝしるしに為とも
なく寂然不動にして感じて通ずるの也先学此字を
下だちとしは初学の受用すべき様を示さんとて者のためへましき
らくいつもりを其気象識とめて心といへるまを知るゝ

あらる也又伏犠氏より孔孟まで以て静坐といへることとさらに
ずる所は人の常也無事なれバ静なるべし心無欲なれバ
自然と静也静坐とハ心を以て時ありて坐する
ことのある心ありて静坐すれバ自然ハ念の外より浅深をはかる
気躁念の者は少く静坐といへることもありしより
主意を主とすれバ用ふるものハ病ある者ならむとも病
を発したる事も間思雑慮を去つて主意にありて工
夫をなす今の学者の主とすることとあらじ又真
の主あるになき氣より作せるなり閑居に狐狸とかり退けんとて
様々として狐狸にて出来り去ん退除のすて来書
間思雑慮にて出来るこのことしたる真の主意なくん衷より
人のなれる故に紋蠅を逐ふに似たり小人の為間思雑慮

ありしかども此の宗源天理人欲并に不言忠信を主とし天理なるかの
の主意にて小人の根ざして天根かくしたるもしもは間思雑慮何
ぞ更変ふたらんや假令邪くまあるはわる人の時の難ひとぞ畏み
あらしいはさゆきうぬけるし八天を用ひもとひへともこけを
退治せんと存じもしも源を澄さしたく人は大陽の雲霧にかゝれば
は祇理かくまでも天ゝ跡をさらしもし明徳は心乃大陽なるか徳
明かなる時は百戒千慎用ること不入天然無心の敬乃存
して暫くも忘るへからん
一 学者問て云文なる者学術を太ゐ嫌ひ何よし二人の友の云文
の心はさうふはもとから学問と孝弟をわきまへしむらんか
也ハ父よそむきて学問をたてへき撰なしんゝ義不義乃道
理をは明らかならん外学問はよくよくなかりせばとよらさるなふハ時の宜よ

ちうも色し学友乃會にあつまりとなれども又一人の友あれハつ
い父乃学術(カンジユツ)あさきさらへるハ愚痴(グチ)なれバ性命(セイメイ)の父母よつふかきを世(カン)
どきくたとひ父命よさかふとも無兆しきわ道を学てぬ
人と成りも大なりの孝ハありへのしれ身してへ父ハ勘當(カンドウ)すりかて
ども我に非義(ヒギ)なれバ人ハうらみもしからさりとかうるゝ人と生
まれて此時節(セツ)をむなしく過(スゴ)さん事ハあさましき事なりと
此兩義(ギヤウギ)に迷ひわづらひ十か六まで後(ノチ)の義を耳よりきゝ思ひ定
めし也何とやらん旅さめふべきこゝろわすれぬ折(ヲリ)くごとわが身を　蒼
我ハ始乃義(ギ)よまさりひきらん大舜(シユン)の性命乃父母よつかえ給
ひしく父母の心よかなひ給ハねどもつひにハ父母大悪人にて
悪をさとれハかなる今此度乃親父(シンブ)めハ悪人の名をなし甚く
からし平人(ヘイニン)也本を後の實(ジツ)を見んに学問(ガクモン)のかさりを紙乃ぞこふかく

見えハ實の人ならず人也其上親父ハ人情時変の知識あり
是を成よん此知識なし是故ハ学術を以て親父よ勝れりと
思ひ給ふへけれとも学術ありとも害あることハなし人まゝある
益あるといへとも心への不作法悪事をするはなしよるへきれハ
益あることも不白なる君子の学ハ心を正しく心ニ能の心正し
けれハ行正しく心和なれハ物を敬ふけれハ貴みの心術ハ心と
行と二ツなるなれハ学友の交りハ和かの世間の交りよ
も和なし在りてさとうちくるまかそも親類知音なと離
達と同志とのも晝夜乃會をなせるもやうもより得いて徒黨
と云ふといはれもなかれん其身中の不作法となりまするハ武士の
家よ生まれなから武藝をはしめとして馬合戦乃道の
心かけもなく先以君よ不忠なりとされ朋友信

わしれ父乃嫌ふ所ハ不孝に極りて貴賤共ニ道理なく親父の心ハ
道理あるとく勘當なしつゝ歎ましと不孝なりと何となく門で
人倫とハ何と以ての聖学をるんで後乃習見ハ棄思ハ無為真
實報恩着よ似たる名の聖学にしく實ハ異学なりと異
学ハ人倫と離まぎて別よたくする法なら人道と出らとし
聖人を非なしてしるふとのかれし各別のことゐ人道にそむきて
聖学とする者ハ實と異学ま合するものハ似て非なる
ものなれバ聖門の罪人なられや一向よ五倫と離れし五等
をおこなふ者ハいかなれバ身乃行と知らんや五倫で
よく五典十義と学び武士にしく五等を行ハんにこゝろしが
すしやうま實をもて實賤とらハ文か衛よさてられて會合
議論さやわ武藝さて作しみえて家業よあしくかゝるねやかれに候ニ（

学文乃名を去て作法正しく只親類ニ音をミか貴賤ス
催し給ハん親父と初く学術乃益を見知給ハヽ宿して
一人書を見給ふ人かきハ誰つゝくしらん親類ニ音式
文とミ於同学會合の座上成へし其間暇とも問く文ハ紙
学ひ文をくれて友と會し給て親父とさ定け給ハし
学友と多ハ武士るれハたま武藝を学ひ武藝の為ニ議論講
催し給ハ武士乃所作を去て五倫乃親を離れて年月を
空しく給て可ならんや他人を嘲笑へし父の威
かりぬ慈愛なきハもし勘當し給ふなるへし
心夜同て云にしてはかくしして心術の受用まてみかに禄と
辞し官をすて静に成て志をたけするハ上達乃功とさ
し何ふへき也より　答云聖賢乃学ハりまけのをえ淺作るへし

於きハよしハ秘めりなあるかハ身すく学たてとこおもく
仕て学所を試ゝ行まんこしそ勢よつきて官禄を去退く
変用まとへきらん何事をや遊民を稱よ今乃学者乃風を
きゝらん會合ありけくりして議論をぬゝ氣方ナおいろゝ人
ゐと村寄て晝夜ともおもよを以て学問の事ども主人
なくて如此あらん然安樂なるとおもへて世人と称がいを
こゞけく一二変せへ心身にて異端を爲者あり或ハ壮年或ハ
無病の若ハ牽業を勤して居かうし或ハ老人或ハ病者あれ
妻子乃一口をつゝむかしくハ居かゝし近比江州に土民ある富有よ
しく田地多しきりなる民ハ筋かれと夜憂て谷あり地士よ
若党をとらい村中を招きよせ其由を披露せり今すそこハ
朝夕小鋤鍬を取て田畠にあやとめて其傀儡も亦也とへ

逆く、ハ我家かましく且士たり頭(カウベ)を戴くハかゝる賤(イヤ)しきわさをハせさるも
とおもひと思ひ居よりたるを年目見たるを黙止(モクシ)てをるを大かたく
むしてこけ家ハ賤業を成すしきものを士(サムライ)より成て賤(イヤシ)くたかくと
志くさ士ハわしきとしの世といつ我ハ今式学者の便利(ベンリ)を好(コウ)ミ志
我らけく懐此田夫(デンプ)の悔(クイ)あらんとおもげく也身わさき人の用を
かゝさ奉公せんとならハ退(シリゾヒ)て氣力ある間ゝ文武の道藝を
達せんおもハれりしるハ又さとおもんき事なるを古ハ八歳よりて
三十歳まて道藝よ乃くをかゝるて旅ゝる風をまとかよふよへる備
者とゝ足と学問修行(シユギヤウ)のなとゞべきわざおまと一日ゝ身もやまされ
まへ給し況や人道りおひろくなるや
一朋友同志ハかゝる事を云ふへきしとまうく今いかなれとも何を
云人を万物ゝ常すものをもぐまてぞあいよしかゝかるへからし

今の人ハ何にくもかまらぬ事のミ好ミ侍りけれハ人よ又万
物すくをからたらぬもの多しかりもの人天下国家之害となる
たとへハ才ある人心ハ霊なりとも身ニねむしをハ今病くなれ
物を生するかたをむすへハ椿をもとへの紅白二色迄つくて生
なりしよ人乃好ミよそありひさくまよ百花をも出来ぬる近乃
又五月つゝじをはかなくすゝての花出来ぬ人道ニ徳とはいへ
なるハ善人賢者餘多出来なんもまた世乃ありまよあらぬ乃かた
古乃まくまさる人乃事なるへし

一 朋友同人のよくむ者ハ命なかく人のわるむ者ハ命みしかし
これハ何とや　曰よ他人ニまハいはりさる身よ長命なる者あり
また又たまく短命なる人あまハわるく思へつあさき者ハ
あく身よ短命なる者何事を是うれしく長命なれハ

しゝみろく心まかくるや人好人へ神氣霊なるを霊なり人ハ福
一者よと賤やすく命みじかく此理をあるを霊草名木乃位なき
きらあらし悪人まて神氣不霊なるを不霊なり者ハ無病まと
あり命なり此理を知るを名をとおき雑木野草ハすてゝる
生長しやおし質あふゝさく乃なりるを悪をきせとるゆゑ
悪人乃地位よ入たる所ゆゑしてたのせハ名をたてやまく身をこ
やまし悪人の地位ま入きらてこそ聞しを恥さる者ハ本覚乃
悪行あらてとも人あらん公儀乃大法をまよれのされハ乱行こ
まくを一生代ゐすとの也如此者あへ神罰をれそし利根
なり人はハ神罰をたらゝし内虚なりとのハ知でさるやく
しく鳴とまゝみるゝ也因ニてゝ物いたしてそも知ずかさぶ
一ろあらし吉凶乃應をあかくのごとし

一心友問随分此悟道修行の僧といふ人乃ぞ佛法をときしもれは
念慮の氣かる事のなきの心学者といふも儒を
それハ不平此色見へ侍りとなきものとむかる此心法ハ
あるまじそれ侍り云何道何学といひて其者にかき
ざかりかきのありハ大道はあられ佛学のときありた
聖学ハ人道也一人乃私なきにあられて人への行ふ
己をそしるの道何そ道に私して不平乃氣なられや己の非
をたゝらハ省察なくし道をたゝらハ默ゝして默
せさらハ其心乃正にあられ君子ハ己に益なく人に益なれ
の言ハ發せれ

一心友問書をよみさる者もたゝらハ善人にすて無事ゝ
候ハ是ハ年よりも得違ハ今より文学をしへきなうなし

残念なりける事也　曰往年なる人の論信最大聖神にも志

ざれはおきまくたまつらんとせんは至誠無息の天真よおれ

年老ぬるなるの識多しと云を亦おや中ならん也人の人なる道を

知らく神人死生疑ハしかれハ大なる惑あるもの有あし　たよ

道をきゝて夕に死すとも可也といへり是ハわ壌一日も進

こ捨られハ幸ならぬ貴賤をもてよ善人の數也信義の従

に卯れとも不息の性存せハ何の恨むる事かあらん

一　心友問異端ある空と云無と云聖学ハたゝ實のミ

答　空則實なり形色あるものハ常ありて常なれハ物ハ真

の實よあらハ形色なきものハ常なりと常なるものを

實とす異学ハいはく色をきらめえれハ聖学ハ無と盡し

たるものなり上天の載ハ声もなく臭もなしあきらか

是故に好人も心静なれば色身へ次福来りて甚よろこびあり禍来りても甚憂ず呼吸の息にてみずから踵まで通じ綿々となくつゞけるのと也泥想人とも云為し槁木死灰と云ことも害あらし異学也有といふも真乃有にあられ無しと云も真の無にあらざるものなる義理乃ことにて

一 欲なき者ハ生まれねえも同し欲乃ごとく義理へ生ずならぬ者ハ禽獣なり欲と云ハ此形の心也生楽なから欲也義なりこゝろざしうごくを道と云琵琶箏なとにたしなむ其形ハ有なれども其虚中ハ無なり糸をかけて用となすにてハ道なれとも天地万物有無不離して道存せり故に有形ハこゝろ無に帰して無中乃神ハ既性命と云性命にたづさふるを道と云有無ハ自然也形体也君にすへれても無もしいれ無形

無色無聲無臭しかりて至し

一心友問書簡ニ先王乃制し給ふ喪服乃數ハ過る者ハふさ
へく之給ひし法也とあるハ心得かたく侍るむかし閔子ニ三
年乃喪をわりて孔子ニ見らるゝニ夫子琴をさつけ給
ハ志らへて聲をなさしむるにあさつは涙をおさへて申されけれは
ハ哀情いまたつきさる也然とも先王乃禮あまハにのへくなとは
こゝろえ給ひけるに子夏三年乃喪終て孔子ニ見えら
れしにも夫子琴を授け給へハあしくて声低発してなのし
めて哀情なをつきさる也然とも先王乃禮ハあへてしくめて及
ハすといひて退けりかくのことくなれハ孔聖も或ハ称し給
ひき過たるハ抑へ給ふことたかはさるやかゝるへきさる　荅曰
愚ハ上古乃ちし申りをいひし世それ先王ゆゑ天よ繼く

拠をたて給はす誠を本として給ふへきところとめ外を本とし給は
給はへきことく自然にきたる給ふへきところ制作をも先王にし給ふ
ところなく誠をむねとし給ふ所誠を本とせずして自然に応じ
時によりていはんや先王の制作なりしおのつから通る紙
迹をゆるゆるは誠をたつる也自然に応して作為なき理あり
先王の法の定めし也後世の生れあひて情をもちゆる者古の人
なくなりける三年の喪にはくをして世めくに情めくに勝る
三年まて及ぶそのかはなる世に思ふくはなきてかへりみ
中古の人も既に今の人のありさまをもはやみた世中事
をしく服くにて欲ひすく情をもして孔子の時にも年々に一二事
の喪をきらひしむる者ありけれをこそ孔門にも七十二賢
下臣やの多かりける二三年の喪に朝小祥祭の礼なとはかれらと

夕ニ歌ハざりし者を子路の笑けれハ孔子聞て由が
を責かしやなんぞ三年の喪ハ久しきのみ了世俗志ある
ハ人情のさまざまに勢ひ見給ひて餘義ありと云も
知法ハならぬ戒なく法をしめしむかしをもつて聖作の
きしめて其是偽を教ゆる也何も天ニ継て極を立給ひ
忠質をなし禮は據なりけれ主意なるべし今の人情
精力まして八月季王代の服期乃法可ならんとあれともしかし
道行ハまれにして八立ぬきかるへし今の俗よりまし右亡ん
末もさくての氣質と学力ニふれたる道行ハ見をも
まことに法のごとくみハ戒へきもの月季乃水土ニよるゐ
の制あるべきか　同閔子乃三年の喪終ても哀情や
まるゝを君子なりとかゆへ乃経ひしハをむならん子夏のやう

くはしくなのしめすとも君子なりと礼にもとかりしとて子貢
のこゝろひきかれしは孔聖のこゝろ給ひしは大方通しつ仁道虎
上下は淺深の位たゝちなりやうはてれへ侍り　云閔子ハ
氣質美なのして文学力ありつとあましてなりと給へる也子
夏ハ天質よりえりし学力えらんで遂てつとあくいきりる云
うゝハ閔子の質ありゝハ閔子ゟハ及ことわらん子夏の質にて
子貢夏のハ及ひかゝかりん世界のみとみゝの聡明の學人ハ篤
行よふ足也篤実の質ハ才知よ不足也顔子閔子ハ二なりく
かならる氣質なり其上聖学あきハ大賢人ならむかもしく
らく行ひかれして文学と不知者と愚不肖と云也此愚不肖
も聖賢君の德化と象きハ治る者人と成者也是と云民とハよろ
こひとしちもひろことわきとすいふなり

LIBRARY OF PRINCETON
MAR 15 1966
THEOLOGICAL SEMINARY

PL803
.K96
V.3

PL803
.K96
v.3